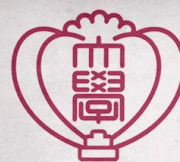


KPU NEWS



社会を動かす薬学へ。
京都薬科大学
KYOTO PHARMACEUTICAL UNIVERSITY

No. 200 Jan. 2020



2020(令和2)年 年頭のごあいさつ

理事長 土屋 勝

新年明けましておめでとうございます。

京都薬科大学関係者の皆様方には、新たな気持ちで2020年を迎えられたことと存じます。

昔から「酒は百薬の長」「たばこは百害あって一利なし」と言う言葉をよく聞きます。前者は適量のお酒はどんな良薬よりも効果があると、お酒を賛美した言葉で、後者のたばこは、弊害になることは百ほどあっても、利益になるようなことは一つもない、という意味で使われます。

一昨年7月、望まない受動喫煙を防止するため健康増進法の一部が改正され、昨年の7月から段階的に施行され学校・病院・児童福祉施設、行政機関等は敷地内禁煙となり、今年4月から全面的に事務所、工場、ホテル、旅館なども原則屋内禁煙となります。

本学の衛生委員会は、この受動喫煙防止対策を進めるための参考資料として、一昨年11月、受動喫煙に関する意識調査を実施しました。その結果、本学の喫煙率は6.6%で、推計で約100名が喫煙者でした。また、

全面禁煙に「賛成」が83.1%で、「医療系の大学であるにも関わらず喫煙は如何なものか」「タバコの臭いが不愉快」など喫煙を否定する意見、要望等が多数ありました。さらに、他大学の受動喫煙防止対策の進捗状況では、私立薬系単科大学の殆どが学内全面禁煙であることが判明しました。

衛生委員会は、これらの結果から、①学生、職員の多くが学内全面禁煙を望んでいること、②改正健康増進法の施行により2019年7月から学校は原則敷地内禁煙となること、③私立薬系単科大学の殆どが学内全面禁煙であることから、学内全面禁煙の実施を経営推進会議に付議することとなりました。

経営推進会議でも昨今の社会的情勢を鑑み衛生委員会の提言を支持し、昨年7月から屋外に専用喫煙室がない南校地は敷地内全面禁煙に、また、本校地も4月からの改正健康増進法の全面施行に合わせ現在の喫煙室を廃止し、敷地内全面禁煙にすることとしました。

これらの措置は、約100名の喫煙者には辛いこととお

CONTENTS

■ ご挨拶

- 2020(令和2)年 年頭のごあいさつ 理事長 土屋 勝 1
- 年頭にあって 学長 後藤 直正 2
- 新任のご挨拶 3

■ 特集

- 学内ジョブプロジェクトについて 4

■ 報告

- 【寄稿】留学生コミュニティでの支援活動 8
- 国立成功大学からの短期留学生受入に関する報告 9
- 2018年度授業評価集計結果の報告 10
- 異文化体験 フライブルク大学主催夏大学2019 12
- 【寄稿】知的障がい児者施設でのボランティアに参加して 14
- KPU NEWSの歴史を振り返る～創刊200号を迎えて～ Part. 1 20
- 「いのちの時間」ライブラリを知っていますか? 22
- 地域の小学校で薬物乱用防止教室を開催 25
- 2020年度推薦入学試験結果 27
- 受賞 30
- 掲載 31
- 京都薬科大学奨学金寄附金芳名録 32

■ コラム

- 卒業生からのメッセージ 18
- 水中でぶつぶつ 19

■ イベント

- 「Lehmannプログラム」記者発表会を開催しました 11
- リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2019京都を開催 15
- 2019年度 防災(避難)訓練を実施しました 15
- 2019年度京薬祭を終えて 16
- 各種セミナーの報告書 21
- 第25回京都薬科大学公開講座 24
- 2019年10月にオープンキャンパスを開催しました 29

■ お知らせ

- 京薬会だより 7
- 京薬コレクション 7
- 第105回薬剤師国家試験の概要 8
- 2019年度動物慰霊祭 11
- Library News 14
- 教育後援会からのお知らせ 17
- 2019年度後期試験等日程 18
- 人事 25
- 生涯教育研究センターからのお知らせ 26
- クラブだより 28

察しますが、「たばこは百害あって一利なし」です。自分自身の健康、周りの人の健康のため、またきれいな空気のことを考え、喫煙者の皆様はこれを機会に禁煙の一步を踏み出してみては如何でしょうか。

さて、私は理事長就任時から大学運営に関する目標は、「大学の価値を高める」ことであると、申し上げてきました。大学の価値は、教育・研究力、財務力、就職力、偏差値、そして薬剤師国家試験の合格率などの指標を高めることが重要で、ここ1年これらの指標は教職員のご努力により一部を除き良好な状況にあります。しかし、57の私立薬科大学・薬学部の全国ベースでの入学試験志願者数は年々減少しており、工学部、農学部等の他の全学部と比較して特に薬学部の減少が顕著であります。このような状況下でも新年度から新たな薬学部の設置が予定されており、昨今の18歳人口が減少する中、57大学の志願者獲得競争の時代といっても過言ではありません。

昨年のラグビーワールドカップでは日本代表が史上

初の決勝トーナメント進出を果たし、日本中が大いに盛り上がりました。日本代表には外国出身も多く、さまざまな文化を持つ選手達に、日本代表のヘッドコーチであるジェイミー・ジョセフさんは「強豪に勝つためには固く団結するしかない」と言い、選手達は「ONE TEAM」のスローガンのもと結束し、活躍しました。

薬科大学・薬学部間の競争の時代には教職協働が不可欠であり、教育職員と事務職員が団結し「ONE TEAM」となって大学運営に携わり、本学の価値が高まればと願っております。

最後になりますが、今年は子年（ねづみとし）です。子年は新しい干支のサイクルの始まりであり、新しいものを作ろうとされている年とされています。皆様も「今年こそは」と、何かに向かって目標を立て、これをやり遂げるという決意を持っていただければ如何でしょうか。

今年もよろしくお願いします。



年頭にあって

学長 後藤 直正

明けましておめでとうございます。昨年は大雨、台風と日本各地で大きな被害が出ました。自然災害の多発を見ても地球環境の大きな変動を感じずにはいられません。災害からの早い復興と今年は自然災害が起こらぬようにと祈ります。

さて、新年にあたり今後の抱負について述べさせていただきます。なにとぞご協力、ご支援のほどお願い申し上げます。

第3期中期計画(2017-2021)に掲げられました3本の柱に沿った事業の展開により、本学が薬学領域での関西の雄から全国レベルに発展しつつあります。さらなる発展のためにはつぎの課題に着手すべきと考えております。

1. 科学を基盤にした薬学6年制教育の向上と展開

「物から人(患者)へ」「安全・安心の医療教育」が求められている6年制教育においては、コミュニケーションと臨床教育は重要な課題であります。一方、多職種医療連携で薬剤師の職能を発揮するには、他の医療系教育では重視されていない基礎科学を基盤とした医療貢献が求められており、基礎科学は安全・安心の医療の推進にも欠かせないことでもあります。このためには研究活動で得られた科学的知見や科学的思考を学生教育、とくに学外実習も含めた臨床に活かすことが必要です。

科学教育の推進や教育の質の確保には、①入学者の質に影響する志願者の増加、②学内教育制度の改善、③6年間の学びを学生が俯瞰できる施設の整備が考えられます。本学志願者の増加のために入学試験制度を見直すことや奨学金の更なる充実の必要性に加えて、効果的な科学教育を維持しつつ、各学年での留年率を抑制する教育体制の改善も求められます。そのために、初年次教育の構築、教育方法の改善や進級制度も含めカリキュラム改訂を行いたく思います。さらに、6年制薬学教育で要求される多岐に渡る履修科目を統合的に俯瞰できる施設の整備に着手したく思います。

2. 学内共同研究の強化

共同研究の機運が高まり、徐々に成果が出てきていると感じております。さらなる活性化によって学内研究力を結集し、より大きな研究成果を期待したいと思います。そのためには職位や領域に捉われることなく、学内教育職員が同じ場所で同じ目的のもとに議論し、共同研究を展開する場所であるシナジールラボ(仮称)の設置と運営体制の構築を目指します。

3. 大学院進学者数の増加

大学院生の減少は日本の教育界での大きな問題のひとつであります。薬学部大学院でも4年制や6年制

の区別なく、国公私ともに顕著に減少しております。現状では臨床教育を受け、薬学6年制教育・研究の中心的役割を担うべき教員が近い将来不足することは明らかであります。現在、本学大学院では収容定員を満たしておりますが、これは法人からの手厚い経済的支援と科学を基盤とする学部教育とが奏効した結果であります。さらにシナジーラボ(仮称)の設置によって共同研究を強化し、融合領域の創生を促すことによって、魅力的な研究拠点の構築によって院生数の増加を期待し、近い将来、多数の本学出身者が薬学を含むアカデミアで活躍する基盤になればと考えます。

4. 学内施設の充実

1. に記しましたように、学生が6年間の学びを俯瞰できる施設には、研究する教育職員が見える場、全職員の憩いの場、近隣の方々が薬学教育・研究を知る場としての機能も加味したいと思います。このためにはシナジーラボ(仮称)と同じ施設内に整備する計画を進め、並行してその運営方法についても検討して参ります。

これらの課題を果たすには皆さまのご協力が不可欠であります。なにとぞお力添えのほど重ねてお願い致します。

新任のご挨拶



医療薬科学系
臨床薬剤疫学分野

いのせ りょう
助手 冢瀬 諒

この度、2019年10月1日付で、臨床薬剤疫学分野の助手に着任致しました冢瀬諒と申します。本紙面をお借りして、ご挨拶を申し上げます。

私は、2014年に近畿大学薬学部医療薬学科を卒業後、大阪市立大学医学部附属病院で、5年間、薬剤師業務に従事致しました。大学病院では、血液腫瘍や

呼吸器腫瘍をはじめとするがん化学療法に携わり、多職種と協働して最良の医療を提供するよう心掛けてきました。また、臨床的な問題に直面した際には、電子カルテを用いた臨床研究や、医療ビッグデータを用いた薬剤疫学研究等を行い、問題の解決を図るよう努めて参りました。

私自身、6年制薬学部の卒業生であり、その視点とこれまでの臨床経験を活かして、ファーマシスト・サイエンティストの育成に尽力する所存でございます。皆様のご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



生命薬科学系
生化学分野

ゆき りゅうざぶろう
助教 幸 龍三郎

この度、令和元年10月1日付で生化学分野の助教に着任しました幸龍三郎と申します。私は、平成24年3月に千葉大学薬学部を6年制1期生として卒業し薬剤師免許を取得後、同大学大学院薬学研究院に進学し平成28年3月に博士(薬学)を修了致しました。研究においては、山口直人教授のご指導の下、がん化をもたらす転写プログラム・シグナル伝達の破綻機構を

解析致しました。学位取得後は、同大学大学院医学研究院にて博士研究員、日本学術振興会特別研究員として、加齢や肥満が誘導する炎症による疾患発症機構に関する研究に従事致しました。

本学ではこれまでの経験を活かし、がんを含めた疾患発症機序の詳細な解析(分子から細胞と個体)と創薬に向けて研究を進めるとともに、本学の教育・研究の発展に貢献し、ファーマシスト・サイエンティストの育成に尽力する所存です。皆様からのご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

学内ジョブプロジェクトについて

本学では、正課外活動において学生が活躍できるフィールドを多様化・拡大化することを目指し、2017年9月より「学内ジョブプロジェクト」をスタートさせました。このプロジェクトは、学生が学内（一部学外）において様々なイベントの支援や企画の立案・運営を行い、職員や他の学生との関わりを通じて、様々な経験をする中で、自立性・社会性が育成され、「社会人基礎力」を身に付けることを目標としております。プロジェクトのスタートから2年余りが経過し、募集を行った学内ジョブは延べ24回、参加した学生は164名に上りました。

今回、特集として「学内ジョブプロジェクト」とはどういったものかに加え、過去に実施したジョブについてご紹介いたします。

学内ジョブプロジェクトチーム
学生課 外村

Feature article.

1. 学内ジョブプロジェクトについて

学内ジョブプロジェクトとは、大学の要請に応じて、学生が学内（一部学外）において様々なイベントの支援や企画の立案・運営を行う制度です。日本の他大学でも「スチューデント・ジョブ」などの名称で実施されている大学も多くなっております。

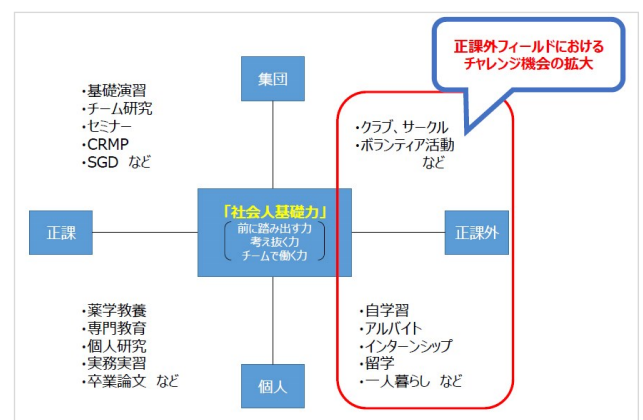
このプロジェクトを始めた理由としては、過密な薬学部生のスケジュールの中で、学生が正課外活動に使用できる時間は非常に限られていることから、大学というフィールドの中で、隙間時間で実施できる様々な学内イベントへ学生が参画することで、効率良く正課外でしか得ることの出来ない知識や経験を得る機会を提供するためです。提供する学内ジョブの多くはプロジェクト形式を採用しており、職員の指示のもと、学生が幅広い裁量を持ち、グループでのディスカッションや個々人で調査を行い、最終的には企画・立案や実際に行動に移すものとなっております。

いずれ社会人となり「人生100年時代」や「第四次産業革命」の時代を駆け抜けるための力として、経済産業省（2006）が提唱している「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）をあわせた、「社会人基礎力」【図①】を学生段階から高めていくことが非常に重要となります。この社会人基礎力は、大学教育の正課にあたる講義や研究活動だけでなく、クラブ・アルバイト・ボランティア活動・留学のほか、友人との交流など、正課外活動においても涵養されます。今後も、この学内ジョブプロジェクトを通じて、学生が正課外において、社会人基礎力を高めるため機会を増やし【図②】、より発展的でチャレンジ性のある制度としていきたいと考えております。



【図①】社会人基礎力

出典：経済産業省 HP (<https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html>) (2019. 11. 14閲覧)



【図②】学内ジョブプロジェクトにおけるターゲットフィールド

2. 過去実施した学内ジョブについて

2017年9月より実施した学内ジョブは下記【図③】の通りです。一部のジョブについては、希望者が多く抽選となったケースもありますが、数多くの学生の皆さんが参加しております。

カテゴリ（身に付く力）	項 目	実施年月	参加人数
アクション	進路支援課ランチョンガイダンス協力スタッフ	2017年9月	1
アクション	（秋季）通学マナー啓発スタッフ	2017年9月	5
アクション	就活サポーター（モデル）	2018年6月	3
アクション	公式SNS運営チーム	2018年10月	3
アクション	薬用植物園御陵園見学会 植物解説スタッフ	2019年4月	12
アクション	2019年度公式SNS運営チーム	2019年4月	8
アクション	薬用植物園御陵園見学会 晩秋の一般公開 植物解説スタッフ	2019年8月	10
シンキング	KPUエコプロジェクト	2017年9月	4
シンキング	食堂新メニュー企画スタッフ	2017年10月	11
シンキング	2018年度京都薬科大学「いのちの時間」プロジェクト企画スタッフ	2017年11月	6
シンキング	KPUエコプロジェクト2	2018年5月	7
シンキング	京都薬科大学「いのちの時間」企画スタッフ	2018年9月	8
シンキング	業界研究セミナーサポーター	2018年12月	6
シンキング	京薬オフィシャルウォータープロジェクト	2019年3月	6
シンキング	2019年度防災カードデザインスタッフ	2019年5月	5
シンキング	卒業生・在学生交流会サポータースタッフ	2019年7月	6
シンキング	「いのちの時間」ライブラリ広報スタッフ	2019年9月	5
チームワーク	2018年度新入生オリエンテーション業務協力スタッフ	2018年4月	4
チームワーク	京都薬科大学美化委員会活動	2018年5月	10
チームワーク	次世代医療を理解する－ライフサイエンス基礎講座－運営スタッフ	2018年9月	9
チームワーク	明治150年京都創生フェスティバル小中高生向け体験教室スタッフ	2018年9月	4
チームワーク	AMR（薬剤耐性）対策に関するシンポジウム・市民公開講座	2018年10月	12
チームワーク	卒後教育講座学生スタッフアルバイト	2019年3月	12
チームワーク	新入生オリエンテーションサポートスタッフ	2019年4月	7

【図③】学内ジョブプロジェクト実施内容一覧（2017年9月～2019年9月）

＜学内ジョブプロジェクトの参加方法について＞

学内ジョブプロジェクトの新規案件については、manaba上の各学年掲示板、コースニュースに都度掲示【図④】を行います。また、学生登録スタッフ事務局（gakusta@mb.kyoto-phu.ac.jp）に登録している学生は、新規案件がでましたら、個別にメールにて通知をします。参加申請はmanabaまたはメールに記載している申込フォームよりログインしていただき、学生番号・氏名を入力していただければ完了です。興味がある学内ジョブが配信されましたら、奮ってご参加下さい。

manabaコースニュース画面（見本）

『いのちの時間』ライブラリ広報スタッフ

●概要
図書館に蓄積されているいのちの時間ライブラリ（映画DVD）の中から、各自でまだ見たことがないものを1本または2本選んで鑑賞し、医療人としての視点を踏まえた感想文を書いてもらいます。感想文はKPUNewsに『いのちの時間』ライブラリの紹介として掲載します。

①ミーティング（趣旨説明、作業スケジュール確認）
②ライブラリからDVDを選んで各自で鑑賞
③DVDの感想文（400～500文字）を提出（11月初めまで）
④KPUNewsの原稿校正（1～2回程度）
「感想文が載るのは恥ずかしい…」という方も、大学で添削しますのでご安心下さい。皆様のご参加お待ちしております！

●活動日時
2019年10月～11月（任意の時間）

●募集人数
2～5名程度（学年問いません）

●謝礼
1本につき、1,000円

●募集〆切
10月3日（木）まで
※応募者多数の場合は、抽選で決定します。
※応募状況によっては、早期に締め切りを行います。

●申込フォーム
https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=yse8bniKDUu0ScujsOli_kgP8YBfA_1NmP680u36_hpUME5HRDVQSZNLQTFLE6

申込フォームから
参加申請して下さい

【図④】manabaコースニュース掲示画面

3. 学生の声

次に、学内ジョブプロジェクトに参加した学生の声をご紹介します。なお、ご本人の希望により一部匿名にしております。

①京薬オフィシャルウォータープロジェクト【写真①】

＜概要＞オープンキャンパス等での配布など、大学広報の活用のため、オリジナルのオフィシャルウォーターをデザインする学内ジョブです。



【写真①】ジョブ参加者がデザインしたオリジナルオフィシャルウォーター

岡本 未奈子さん（2年次生）

本学の魅力を最大限伝えるにはどうしたらいいか、先輩及び職員の方と議論を重ね、思い描いていた通りのボトルが完成した時には大きな喜びを感じました。このジョブにけるメンバー一人一人の熱意とアイデアをまとめていくチーム力があったからこそ、出来たと思っています。また、皆様に喜んで貰えた事で京薬ボトルによりいっそう愛着が湧き、今でも家で飾っています。このジョブに参加したことで、多くの良い経験ができました。

②業界研究セミナーサポーター【写真②】

＜概要＞製薬・化粧品・食品など多くの企業にお越しいただき、業界・企業の説明をしていただく「業界研究セミナー」の運営を手伝うジョブです。低年次生には少しハードルが高いですが、その中で、薬学部生の進路の多様性などの気づきを得ることができます。



【写真②】業界研究セミナーで熱心に説明を聞くジョブ参加者

参加者（当時3年次生）

ジョブに参加して良かったです。将来の就職先として企業について知ることができただけでなく、他の学年の人とも関わることができ、楽しかったです。成果発表のプレゼンについては「ゆっくり話す」という目標は達成できました。終了後のアンケートから自分達の伝えたいポイントが伝わっていることがわかって嬉しかったです。プレ発表や練習時間があつたので、緊張をもって発表に臨むことができました。また、プレゼンの場がなければ、今回のジョブで何が得られたのか、真剣に振り返ることもなかったと思います。今後もこのジョブが続くことを願っています。

また、ジョブの成果発表会の中では以下のようなコメントがありました。

- ・企業について前もって調べるといふ準備の大切さを学べた。
- ・製薬会社以外にもCROや化学、化粧品、食品など多くの進路があることがわかった。
- ・製薬会社にもMR以外に多くの職種があることが分かった。
- ・将来への視野の広がり、これからの学生生活をどのように過ごそうか意識の面で変わった。

4. おわりに

学生の声にもあるように、京薬オフィシャルウォータープロジェクトについては、答えの無い課題についてチームで考え、形にしていく過程において、思考力・チームワークを、業界研究セミナーについては、就職活動に際しての業界知識やプレゼンテーション能力を、参加学生はそれぞれ身に付けることができたと思います。これ以外のジョブについても、それぞれの特色を活かした経験ができる機会となっております。

正課外活動は、社会人基礎力を高めるために、自分自身がデザインする時間割表です。その中には、「必修」はありません。全てが「選択」により、自由に学び・経験することが可能です。

ぜひ正課外において、「何かチャレンジしてみたい」「新しいことをやってみたい」「自分のネットワークを広げたい」と思った方は、クラブやアルバイトのみならず、学内ジョブも視野に入れてみて下さい。そこには、皆様のスキルを高めるための手がかりがあるかも知れません。

これからも定期的に学内ジョブを配信いたしますので、ぜひ皆様の活発なご参加をお待ちしております。

<第10回ホームカミングデーの開催>

今年で10回目の節目となるホームカミングデーを11月3日(日)に開催しました。大学や京薬祭実行委員会とタイアップし、今の大学を知り在学生等との交流を通じて母校愛を深めることを目的としたイベントです。

また、京薬会では京薬祭への協賛、助成金や模擬店で使用したチケットの還元など学生活動の支援を行っています。

第1部歓迎セレモニーでは、

西野京薬会会長、土屋京都薬科大学理事長の挨拶、後藤学長より大学の近況について紹介、学生自治会長の野田早紀さんより歓迎挨拶がありました。

恒例の京薬会によるクラブ表彰では、優秀クラブとして「男子バレーボール部」「マンドリン部」「合唱部(ユーベルコール)」が選ばれ、副賞を添えて表彰しました。また、2018年度研究・課外活動優秀者の米岡 那夏子さん(6年次生)から「随心院ミス小野小町の活動を通して山科の地域活性化に貢献」について発表、そして、合唱部(ユーベルコール)の皆さんによる歌声で第一部を締めくくりました。

第2部の記念講演では、

本学病態生理学分野教授の芦原英司先生に「白血病と分子標的治療」、京薬会愛学躬行歴史資料室委員長の鈴木栄樹先生に「京薬と同窓会の歩み」と題して講演いただいたほか、貴重な資料の展示や愛学躬行歴史資料室の見学会を行いました。

第3部の歓迎パーティーでは、

参加者に配布したチケットを使って学生の出張販売の購入、模擬店に繰り出したりと、卒業生はもとより、恩師や現役教職員、在学生との交歓も随所に見られ、和やかな会となりました。



歓迎パーティーの様子

京薬コレクション Column vol. 9



作品名 『花と城』
作者 幸野 煤溪
規格 紙本彩色
縦 970 mm
横 1,455 mm

本作品は、1973年に1943年卒業生から卒後30年を記念して寄贈されたものである。本作品には、作者本人からの『「花と城」によせて』と題したメモが残されているが、それには(以下概略)「昼下がりの庭の片隅に可憐に咲いた“ひなげし”に、どこからかタンポポの胞子が飛んできた情景を見ていたときに、ふと頭の中にアッシジの古城が浮かんできた。10年前にイタリアを汽車で旅行したときの印象が甦ってきた。けしの花には夢とロマンがある。この白日夢の中に「花と城」を組み合わせてみよう」と試作した」と制作意図が書かれている。

幸野煤溪(こうの ばいけい: 1914~没年不明 京都市出身 現代美術 本名(豊一))祖父は幸野煤嶺(帝室技芸員)、父は西湖(四條圓山派)。1931年京都市立絵画専門学校(現京都市立芸術大学)本科1年の在学時に帝展初入選。その後、文展、日展等に入選。1934年西村五雲(同絵画専門学校教授、竹内栖鳳の弟子)に師事。1963年モンテリオール、1969年ニューヨークの各国国際美術教育学会に日本代表として出席。1966年京都ユネスコ協会常任理事。

■ 5年次生 太田 千佳子

私は、昨年度から大学コンソーシアム京都の国際事業部が行う留学生コミュニティに所属しています。きっかけは、以前から大学コンソーシアム京都主催の「英語で京都をプレゼンテーション」の受講、海外学生向けの京都での短期留学プログラムでの引率などを行っており、KyoTomorrow Academy(以下、KTA)での活動に日本人学生として参加してみないかと、声をかけて頂いたことでした。

KTAに所属を決めた1つの理由は、2度の短期留学の経験です。2年次の本学のボストンMCPHS大学サマープログラムや翌年の個人での語学留学では、現地の学生やホストファミリーに観光地へ連れて行ってもらったりするなどのサポートがあったからこそ、充実した留学生活が送れたと考えています。そこで、私も日本へ来ている留学生の楽しい留学生活の一助になりたいと考えました。もう1つの理由は、留学生と留学生支援活動に関わる日本人らとの交流により、自分の視野を広げることにもつながると考えたからです。

それでは、現在所属しているKTAでの活動についてお話をします。KTAは京都に住む留学生の就職支援や交流支援を目的としたコミュニティで、昨年度は355人の留学生の登録がありました。私の具体的な活動内容は、留学生が交流する為のイベント企画・運営や就活支援講座及び日本語学習講座でのサポー



大文字山登山にて
(筆者：先頭から3番目)

ト、SNS用のレポート作成です。コンソーシアムの職員さんや他の学生サポートスタッフ5人(うち4人は留学生)と企画したイベントには、鴨川ハイキング(2018.6)、京都学生祭典での模擬店の出店(2018.11)、大文字登山(2019.5)などがあります。模擬店の出店では、留学生と共に一からメニューを開発し、人気投票で全5団体中1位を獲得することができ、忘れられない経験となりました。



模擬店参加メンバーと
(筆者：前列右から1番目)

そして、就活支援講座で出会う留学生たちは、日本で就職したいという意思を強く持っており、その思いに私も刺激を受けています。この活動で私が意識していることは、KTAを留学生の楽しみの場とすることです。そのために、私は常に留学生の立場を尊重し、分かりにくい表現を使っていないか、みんなが話の輪に入っているかというように気を配る中で、俯瞰的に周囲の状況を把握し行動に移す力が伸ばせたと考えています。忙しい学生生活の中で、このような学びや経験を学外で得られたことは、自信につながっています。また、薬学という背景を持たない日本人や留学生との出会いを通じて獲得した多様な視点を将来に活かすことができると考えています。この寄稿文が、留学生と関わってみたい本学の学生にとって、KTAのイベントへの参加など行動へ移すきっかけになると嬉しいです。

News 第105回薬剤師国家試験の概要

学生課

第105回薬剤師国家試験は、次のとおり実施されます。

試験日	2020年2月22日(土)及び同月23日(日)
試験地	北海道、宮城県、東京都、石川県、愛知県、大阪府、広島県、徳島県及び福岡県
試験科目	[必須問題試験] 物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務 [一般問題試験] - 薬学理論問題試験 物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理 - 薬学実践問題試験 物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務
合格発表	2020年3月24日(火)午後2時に厚生労働省本省及び各地の薬剤師国家試験運営臨時事務所に、受験地及び受験番号を掲示して発表するほか、合格者に対して合格証書が郵送されます。

2019年7月2日から9月6日までの約2ヶ月間、海外協定校である国立成功大学（台湾台南市）薬学部5年次生のチャン イーハン（張 亦函：Yi-Han Chang）さんが、本学の病態生化学分野に短期研究留学生として留学しました。学内の国際交流推進のため、イーハンさんの研究留学の感想をここに紹介させていただきます。

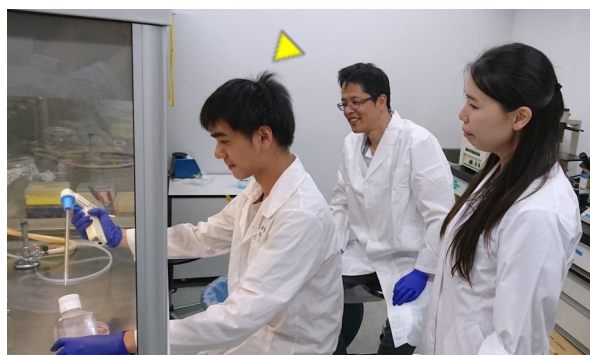
国際交流推進室

Hello everybody, I am Yi-Han, who visited KPU as an exchange student this summer to fulfill the cooperative research project between Dr. Hung and Prof. Akiba. As my first time staying in a foreign university for such a long period, I was so excited but also a little nervous. Fortunately, all teachers and students were so nice and hospitable that I had no problem about my daily life. When it comes to lab experiences, at my first sight, I was so stunned that the lab was huge and neat, where also hosted a number of students. Guiding by Dr. Kawashita and Dr. Ishihara, as well as instructing by the students, I had acquired the skills of performing cell culture, RT-PCR and Oil Red O staining. And what I admired the most was that every time when we encountered a problem, the students would attempt figuring it out by themselves first before discussing with teachers; besides, they followed the rules and protocols very scrupulously to make sure all of the data were reliable. As for extracurricular activities, I appreciated a lot that the students showed me around Kyoto city and Gion Festival; what's more, they also held a TAKOYAKI party for my birthday! Although this period was really short, but I have fallen in love with this place so much that I hoped I could study or work in Japan in the future. Last but not least, please pay a visit to Tainan city in Taiwan and enjoy my beautiful hometown someday.

Yi-Han Chang, 5th year undergraduate student, National Cheng Kung University, Taiwan

～日本語訳～

こんにちは、私は国立成功大学のHung助理教授と京都薬科大学 病態生化学分野 秋葉教授による共同研究プロジェクトに関連して、今夏、京都薬科大学に留学したイーハンです。このように長期間海外の大学に滞在するのは初めての経験だったため、楽しみであるとともに少し緊張していました。幸い、先生方や学生の皆さんがとても優しく受入れて下さったので、生活面で困ることはありませんでした。研究室での経験について言えば、最初の印象としては、研究室が大きいうえに整頓されていること、多くの学生が所属していることに大変驚きました。河下先生や石原先生、学生たちの指導を受けて、細胞培養、RT-PCR、Oil Red O staining（細胞内脂肪滴の染色）に関する実験技術を学ぶことができました。私が最も感心したのは、京都薬科大学の学生は、実験中に何か問題に直面した時はいつも、先生に相談する前に、まず自分達で考えて解決を試みていたこと、さらに、彼らは、全てのデータが信頼できるものなのかを確かめるために、とても丁寧にルールやプロトコル（実験方法・手順）に従っていたことです。課外活動について言えば、研究室の学生が私を京都の街や祇園祭に案内してくれたことにとても感謝しています。さらに、私の誕生日にたこ焼きパーティーを開いてくれたこともありました。今回の滞在期間は感覚的にはとても短かったですが、将来日本に留学したり、働きたいと思えるほど、この場所が好きになりました。最後になりますが、今回お世話になった方々がいつか、私の地元である美しい台南（台湾）を訪れてくれることを願っています。



細胞培養手技の指導を受ける様子（筆者：▼）



誕生日パーティー（筆者：前列中央）

本学では、授業の改善を目的とした学生による授業評価を Semester 毎に実施しています。授業評価の方法として、2002年度から「授業アンケート」を行い、2009年度以降、全学生を対象に実施しています。2018年度より、アンケートを専用の用紙に記入してもらう方法から、manaba 上で回答を記入してもらう方法に変更しました。評価対象となる教員は専任教員及び非常勤講師です。

本アンケートの集計結果を受けて、学生の意見に対するフィードバックのために「リフレクション・ペーパー」を作成しています。全教員のリフレクション・ペーパーは冊子体にして図書館で公開し、閲覧ができるようにしています。これにより、今後の授業改善が積極的に進み、教員及び学生にとって有意義な授業が実施されることを期待します。

2018年度授業評価の集計結果と解析結果の概要を以下の通り報告します。

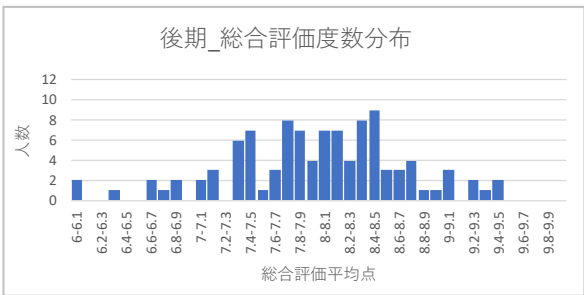
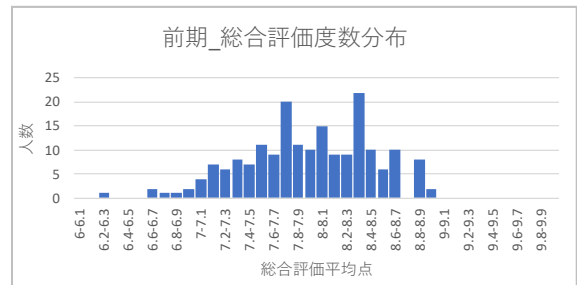
■「学生自身の授業で学ぶ態度」と、「教員の授業に関する項目」について別々に評価をしてもらいました。

◇「学生自身の授業で学ぶ態度」について（5段階評価）

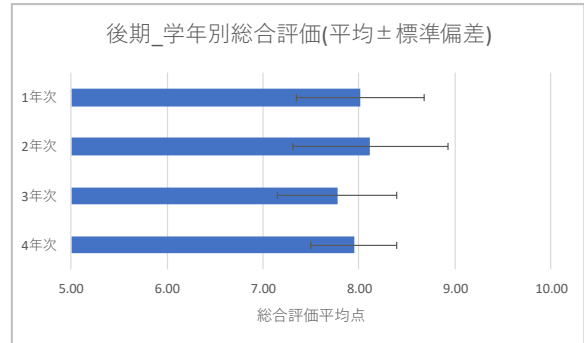
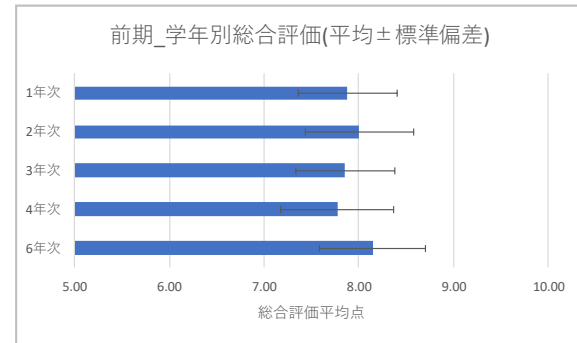
設問	前期評価	後期評価
Q1 予習・復習などの授業外学習を十分に行い、この授業に対して意欲的に取り組んだ。	3.76	3.84
Q2 授業の到達目標を達成できた。	3.88	3.91
Q3 授業で学んだことを、他の授業の内容（今までに学んできたこと、他の科目など）と関連付けながら理解することができた。	3.96	3.94
Q4 授業で学んだことで興味・関心が高まり、これからより深く学びたいと思った。	4.04	3.94

◇教員の授業に関する項目

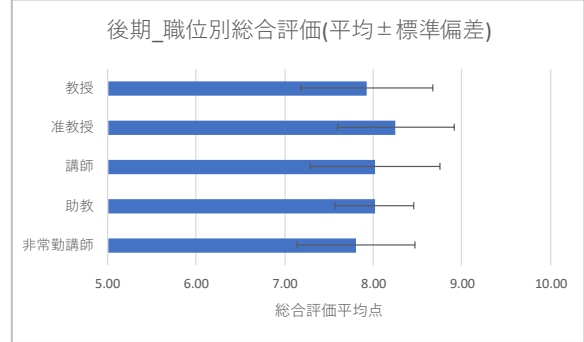
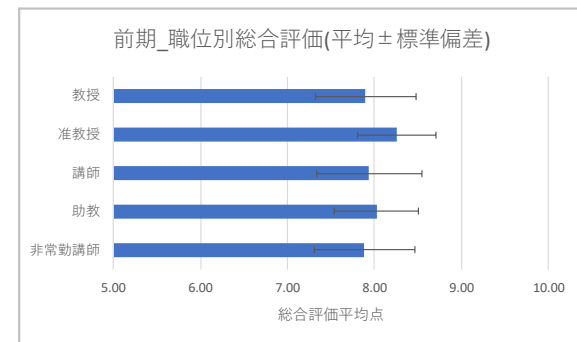
1) 科目・教員別総合評価の分布



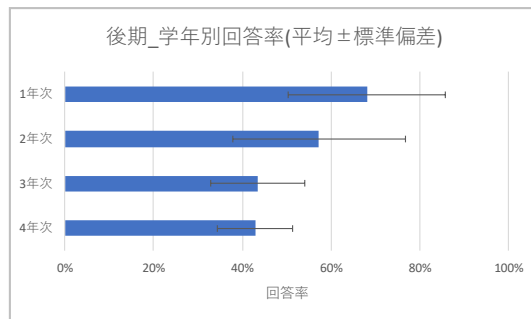
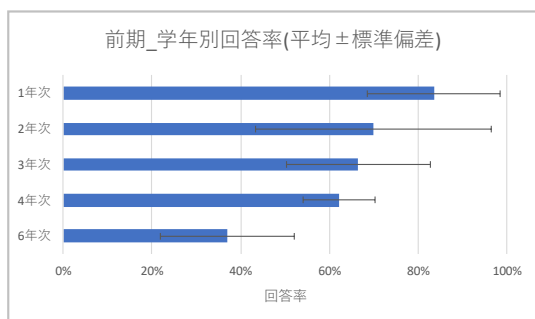
2) 学年別の総合評価平均点



3) 職位別の総合評価平均点



4) 学年別のアンケート回答率



■ まとめ

最後に、授業アンケートに協力頂いた学生諸君に感謝するとともに、今後の授業改善のために、アンケート回答率の更なる向上を目指したいと思います。授業アンケートは今後も継続して実施しますので、回答への協力をお願いします。

また、評価対象となった教員におかれましては、アンケート結果を参考にされ、更なる授業改善に役立てていただければ幸いです。

専門・認定薬剤師養成 履修証明プログラム 「Lehmannプログラム」記者発表会を開催しました

Event

企画・広報課

人生100年時代を見据え、高等教育機関には学修者の視点に立った「リカレント教育」が求められています。本学では、将来の医療の高度化・多様化への対応と患者本位の医療を実現する薬剤師を養成するため、国内教育機関初の専門・認定薬剤師養成を目指す履修証明プログラム「Lehmannプログラム」を策定、本件に関する記者発表会を2019年11月20日に開催しました。本プログラムの詳細については、本誌次号（No.201 2020年4月発行予定）の特集記事に掲載する予定です。



本プログラムの趣旨を記者に説明する後藤学長

本プログラムの概要については
本学Webサイトのプレスリリース
をご覧ください。



News お知らせ

庶務課

■ 2019年度動物慰霊祭

10月30日（水）に、本校地の動物慰霊碑前において、2019年度動物慰霊祭を執り行いました。当日は、当麻寺の増田宗雄住職をお迎えし、読経をいただきました。土屋理事長、後藤学長、赤路副学長、加藤バイオサイエンス研究センター長をはじめ職員、多くの学生が次々と焼香をし、日頃教育・研究に貢献をした多くの動物達に感謝と慰霊の念をこめて冥福を祈りました。

2000年に始めたフライブルク大学主催のサマープログラム（現：夏大学）への派遣がこの夏でまる20回目を迎えた。わずか5名しかいなかった参加者も今では20名を超える規模に発展、20回の派遣で380名を超える薬大生がフライブルクでの短期留学を体験するという喜ばしい記録を残すことができた。今年（2019年）もドイツ語コースと英語コースの2コースに23名の2年次、3年次生が参加、語学学習だけでなくフライブルク大学医学部附属病院の院内薬局や市内の個人薬局の

見学、薬学部でのミニ講義、施設見学など得難いプログラムを体験した。今回の派遣団の中から3名の参加者に今回の夏大学の体験を綴ってもらった。我と思わん諸君は是非とも派遣20周年の来年にフライブルクを目指してほしい。

ドイツ語担当准教授
日本フライブルクアルムニ会員
桑形 広司

■ 2年次生 岡崎 瑞紀（ドイツ語コース）

ドイツの薬剤師は患者との密な関わりを大事にしている。フライブルクで生活し始めて第一に感じたのは、薬局の数が多いということであった。しかし、日本のように病院の近くに薬局が併設されている所は少なく、ドイツでは「かかりつけ医」ならぬ「かかりつけ薬局」を決めている人が多いという話を聞いた。日本にもかかりつけ薬局の制度はあるが、ドイツではその制度がより浸透し、薬剤師がより市民に寄り添っている様に感じられた。

また、フライブルク大学薬学部の研究室見学においては三つの研究室を見学させてもらい色々な話を聞かせて頂いた。その中で私が一番印象に残っている事は薬学教育における大学のシステムの違いである。本学では将来的にどのような職業に就くにしても全学生が六年間共に学ぶことになっている。しかし、フライブルク大学においては薬局で働くのと企業で働くのとでは異なるコースが設けられている。企業コースは十年前から始められた制度にも関わら

ず、今では多くの学部生が選択していると聞き、自らの将来について明確な考えを持った上で大学に入る学生が多いのだと感じた。

現在、日本では薬剤師の在り方が大きく変化しつつある。私が薬剤師になる頃には今まで以上により多くの事をしないとイケないかもしれない。その中で重要な事は、患者のことをより詳しく知ることであると思う。そのためには地域に密に関わるフライブルクの薬局の在り方は是非とも参考にすべきだと感じた。今回のサマープログラムに参加したことで本当に沢山のことを学び、それに伴い、日本に居る時には持てなかった視点から物事を見ることが出来た。この留学プログラムに参加する際に関わってくださった皆様に感謝すると同時にこの一ヶ月で学んだ事、感じた事を自分のこれからの学生生活に活かしていきたい。



大学薬学部の研究室見学での集合写真（筆者：前列右から6番目）

■ 2年次生 武田 里佳子（ドイツ語コース）

フライブルク大学に留学してたくさんのことを学ぶ機会を得た。

まず、普段の生活や授業では英語があまりできない海外のクラスメイトが、授業に積極的についていき友達をたくさん作る姿を見て「相手のことに興味を持ち、コミュニケーションをとろうとする大切さ」や、拙い英語や中国語でも真剣に話を聞いてくれるクラスメイトやフラットメイトを持つことで得られた「母国語以外でも話をする勇氣」など…。クラスや寮でできた友達からたくさんのことを学ばせてもらった。

休日はドイツ国内や隣国のフランスに旅行に行ったのだが、その際も日本ではなかなか経験できない貴重な体験をした。ドイツの電車の乗り方が日本とは全く異なっていてその違いに戸惑ったり、バス停が思っていた位置よりもかなり遠くにあって帰りのバスに間に合わなかったり、中央駅の地下のスーパーでみんなで買い物をしていると、屈強な警察官3人が現れて出身国を執拗に尋ねられたりとハプニングが多かった。しかし、それらのハプニングが実は人のやさしさに触れる機会を与えてくれたり、さら

には、問題に遭遇したときの切り抜け方を学んだりするいい機会となった。ハプニングは、現地の人に助けを借りなくてはならない瞬間をもたらしてくれたので、英語を話すいい機会となった。

また、留学中、台湾や香港のクラスメイトと仲良くなり中国語を話せるようになりたいと思い、来年台湾に留学しようと考え、勉強している。私は第2外国語でドイツ語を選択していなかったが、様々な経験や新たな目標を与えてくれたドイツ留学プログラムに、勇気を出して参加してよかったと思う。



クラスの修了証書授与式にて撮影
(筆者：後列右から2番目)

■ 2年次生 藤井 菜緒（英語コース）

私はフライブルク大学サマープログラムの英語コースに参加し、約1ヶ月英語を学んだ。クラスメイトには日本人だけでなく中国、韓国、コロンビアなどから来た人もいたり、また年代も私と同じような大学生の他にも様々な人がいて、このような普段では関わることはない人と毎日共に授業を受けたり話したりすることは、私にとってとても刺激的で楽しい時間だった。授業の内容は文法やライティング、また授業の最後に1人ずつ行うプレゼンに向けての準備が中心だったが、日本の授業のように先生の話聞いて自分で作業を行うのではなく、先生の問いかけに答える形式や、ペアワークやグループワークを行うことが多かった。自分の考えをばっと英語で表現するのはそんなに簡単なことではないし、うまく伝えられないときもあるが、積極的に発言することで英語力の向上につながったと思うし、クラスメイトとの距離を縮めることもできた。プレゼンでは折り紙を紹介し、鶴の作り方を教えたときに楽しんでもらえたことがとても嬉しかった。

また語学の他に、生活などの面でもこの留学は自分を成長させてくれたと思う。スーパーでの買い物や電車の乗り方など、日本とは異なることも多かったが、週末には自分たちで遠出の計画をたてて観光地へ出かけ、充実した時間を過ごすことができた。この留学でのさまざまな経験とそこで得たものを忘れずに、これからの大学での学びや将来に活かしていきたい。



クラスメイトと先生と一緒に撮った写真
(筆者：中段右から2番目)

【図書館 開館日程】

2020年1月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2020年2月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

2020年3月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

 8:30-21:00

 10:00-17:00

 8:30-17:00

 休館

 休館＝館内整備・蔵書点検

【寄稿】知的障がい児者施設でのボランティアに参加して

Report

空手道部部長 村上博哉

僕たち空手道部10名は、2019年9月7日に大津市立やまびこ総合支援センターで行われたお祭りにボランティアとして参加させていただきました。部の師範がセンターの関係者と知り合いであった関係で紹介を受け、応募したものです。

このセンターは知的障がい児者の方の施設で、僕たちの主な仕事はお祭りの運営と障がい者の方の付き添いでした。施設には色んな方がいらっしゃいました。大声をあげたり走り回ったりする方、また、瞬きしかできない方や話しかけても反応のない方もいました。最初はどの行動すればいいか、どう話しかければいいかわからないことばかりでした。僕が担当した方は、立つことと話すことが不自由であったため、意思疎通を図るのが難しかったです。しかし、職員の方にその方の性格やどう接すればいいかを教えていただけたので、時間が経つにつれ少しずつ僕のことを受け入れてくれたように感じました。

8時半から14時というそれほど長くない時間でしたが、今回のボランティアは僕にとって初めての経験であり、沢山のことが得られました。また、他の部員も「一生懸命生きている障がいのある方々を支えたいと思った」、「普段あまり関わることのない方々とお話し、新鮮で色々なことを学べるいい機会になった」、「これからは様々なボランティアに参加して貢献していきたい」などの感想を持ったようです。見たり聞いたりするだけでなく、実際体験してみるものの大切さも学ばせていただきました。今回の活動をこれで終わりにすることなく、今後も続けていけたらと思いました。



空手道部のメンバー（筆者：前列右から2番目）

庶務課

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2019京都（主催 リレー・フォー・ライフ・ジャパン京都実行委員会、公益財団法人 日本対がん協会）が、本学にて開催されました。本学では3回目の開催となります。本イベントは、がん患者さんやご家族、その支援者の皆さんが交代でタスキをつなぎながら夜を徹して歩く「夜通しウォーク」や、様々な企画を通じて、がん征圧への願い、絆を深めることを目的としています。京都府では2011年に1回目のイベントが開催され、今年で8回目となります。本学では、がん治療薬、がん薬物療法など、がんに関する研究活動を行っていることから、本イベントの趣旨に賛同し、会場・施設の提供と学生ボランティアの運営参加に協力しました。今回は、本学大学院生の若林亮介さんが実行委員長に就任し、大役を務めてくれました。なお、本イベントは京都新聞の取材を受け、同紙（2019年10月14日朝刊）に掲載されました（P. 31参照）。



メインイベント「夜通しウォーク」

開催期間：2019年9月28日（土）14：00 ～ 29日（日）9：00

2019年度 防災（避難）訓練を実施しました

Event

施設課

2019年度の本校地防災訓練を10月10日に実施しました。今年度は避難訓練に加え、山科自衛消防隊訓練大会参加教職員と山科消防署消防隊による合同放水訓練や、スマートフォン等を利用した安否確認システムによる安否確認訓練、そして山科警察署交通課による交通安全指導といった新しい取り組みを行いました。このように、防災対策委員会では訓練がより良いものとなるよう毎年改善に努めております。



山科警察署交通課からの交通安全指導



合同放水訓練の様子



山科消防署消防隊からの訓練講評

学生の皆さんは入学から学部卒業まで、5回から6回の訓練を経験されることになります。学内での避難訓練自体は毎年大きく変わることがないため、ややもするとマンネリ化を感じることもあるかもしれませんが、毎年毎年の地道な訓練により、安全かつ迅速な避難行動が身に付きます。在学中はもちろん、皆さんが本学を卒業され、それぞれの進路の先でも自分自身や家族、同僚や地域の方などの安全を守れる人になること強く願っています。

災害時の行動基準が
まとめてあります



ポケットサイズ！

デザインは
学生が考案

☆愛学館食堂前で
配布しています。

今年も無事に京葉祭を終えることができました。

京葉祭の開催を迎えるにあたり、多くのご支援、ご協力を賜りました京葉会をはじめとする大学関係者の皆様、本当にありがとうございました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

今年の京葉祭は、平成から令和へと元号が変わり、最初の京葉祭ということで、心機一転、より良い方向にChangeしていこう！そして京葉祭はやっぱりおもしろいわ（令和）！と思ってもらえる様に、テーマを「Change #京葉祭おもしろ令和！」とし、幅広い世代の方々に楽しんで頂けることを目標に様々な企画・運営を行いました。



今年のテーマの垂れ幕

今年の注目点としては、京葉祭の来場者を対象としたインターネットアンケートを実施致しました。良かった点としては、本学の関係者だけではなく近隣にお住まいの方々が多く来場されているため、目標に掲げていることが達成できていることが分かりました。参加・観覧した企画では、模擬店・子どもランド・フリーマーケット、フェイスペイントなどの回答が多く、来年以降もぜひ継続してほしいと思っております。中でも嬉しかった意見として、「学生の皆さんが元気で、優しく、楽しめた」という意見を多数頂きました。これは、実行委員だけではなく京葉祭に参加した京葉生の皆さんが誇りに思っていることだと思います。対して、改善したほうが良い点として、「イベントの場所がわかりにくい」や「案内図がもっと欲しい」などの意見を頂きました。これに関しましては、案内マップの充実や掲示物を用いた誘導などに力を入れて改善できるように次年度に引き継ぎたいと思います。

実行委員会では、当日に行うカラオケ大会やふくびき大会などの企画・運営はもちろん、アーティストの選定や企業ブースの誘致、ステージやテントなどの物品発注の依頼、各企業や近隣の飲食店への協賛金の依頼、消防署・保健所との連携など京葉祭に関わることを全て担当しています。主に、3年次生が京葉祭全体の運営に関わることを担当し、1、2年次生が数企画に分かれて、当日のステージ企画を担当しています。遅くとも、4月から各企画の企画書作成や、運営スケジュール、業者との当日に関する打ち合わせなどを行い、9月中旬から京葉祭当日までの1ヶ月半は、それを元に作業を行う期間でした。今年の実行委員は例年に比べて人数が少なく、特に9月中旬から京葉祭当日までの1ヶ月半は、夜遅くまで活動を行い、とてもしんどく、仕事量も昨年より増えたため、疲労やストレスなどが溜まった期間だったと思います。

自分自身、実行委員長なので、実行委員内の雰囲気

をよく保つために、「報告・連絡・相談」を徹底し、できる限り全てのところに目を配れるように努力し、活動を行いました。途中、いくつか悩む点もありましたが、みんなで話し合い、協力し、無事に乗り切ることができ、大きな問題も起こることなく京葉祭を終えることができました。



ステージ企画の様子

京葉祭を終えて感じたのは、やはり、同学年の仲間たちの大切さです。最初、実行委員長をすると決まった時は、正直、不安よりもわくわく感の方が大きく京葉祭が楽しみでした。しかし、活動が始まり、京葉祭が近づき、悩む点が出るたびに、責任の大きさを次第に感じ始め、気づけば不安に押し潰されそうなくらい考え込んでいました。それでも、実行委員長を務め切ることができ、京葉祭を無事に終えられたのは、自分だけの力ではなく、紛れもなく同学年の仲間達のおかげです。貴重な意見や素晴らしい手本となってくれた先輩方や、ついてきてくれた後輩たちにも感謝いっばいですが、京葉祭実行委員会という場だけではなく、その他の場でも日頃から支えてくれて、一番身近な存在でいてくれた同学年の仲間には本当に感謝しかありません。ありがとう。

いま振り返れば、何気ない思いで入った京葉祭実行委員会に所属してから今日までの3年間はあっという間でした。皆の期待に十分応える事ができたかは分かりませんが、この活動を通して自分自身すごく成長でき、とても良き思い出となりました。

改めまして、お世話になった大学関係者の皆様、本当にありがとうございました。また、今後とも京葉祭および京葉祭実行委員会を温かく見守って頂きますよう、お願い申し上げます。



2019年度京葉祭実行委員メンバー

2019年度の教育後援会総会が、10月5日（土）13時からT31講義室に於いて開催されました。当日は全国より171名のご父母の皆様にご参加いただきました。

はじめに、清水会長、土屋理事長の挨拶があり、後藤学長から大学の近況等について説明が行われ、その後議事に移りました。議事については、2018年度決算と2019年度事業計画案・予算案について報告が行われ、2019年度予算については下表のとおり承認されました。

議事の最後に、会計監査の交代があり、荻田様が就任されました。議事後、学生部長の上野教授から「本学の学生生活について」、教務部長の栄田教授から「本学の薬学教育について」、進路支援部長の安井教授から「本学の就職支援について」の講演が行われ、最後に西口副会長より閉会の挨拶があり、総会を終了しました。

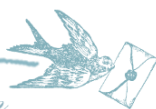
参加したご父母からは、「学校の事、学生の事等色々な事が分かり、大変貴重な時間でした」「国家試験の合格率や就職率、大学院についての説明、薬

学教育、進路についてよく理解できた」などの感想を頂き、概ね満足いただいたのではないかと思います。また、議事後の質疑応答も活発で、ご父母の皆様がご不安に思われていることが解決できたのではないのでしょうか。来年度も同時期での開催を予定しております。日程が決まり次第、改めてご案内いたしますので、多数のご参加をお願い申し上げます。

また、教育後援会の事業として、2018年度から課外講座補助に対する予算を増やし、従来開講していた「TOEICテスト対策講座」に加え、「3時間集中英語自己学習法セミナー（初級・中級）」「3時間集中TOEICスコアアップセミナー」を追加開講しております。いずれも教育後援会において受講費の一部を補助いたしますので、学生は低負担にて講座を受講することが可能です。2019年度も更にバリエーションを増やし、開講を行う予定ですので、ぜひ積極的にご参加下さい。

●2019年度教育後援会予算（一般会計）

項 目	予 算 額	使 途
学生生活支援事業	1,559,000	学生教育研究災害傷害保険料補助
	200,000	保険適用外初診料補助（上記保険適用外の初回治療費を補助）
	1,000,000	学生補助金
	150,000	弔慰金
	1,600,000	課外講座受講料補助（学内で開講する課外講座の受講料の一部を補助）
	200,000	一般図書の寄贈
	600,000	卒業祝賀会への協賛
	1,122,000	卒業記念品の贈呈
	138,600	新入生啓発支援
小 計	6,569,600	
父母対象事業	600,000	会合費・事務費・郵送料
	800,000	学内広報誌KPUNews郵送料
小 計	1,400,000	
教育研究支援事業	940,000	分子模型の贈呈（2019年度新入生対象）
	1,896,200	参考書「治療薬マニュアル」の贈呈（2019年度4年次生対象）
	1,450,000	長期実務実習に向けた追加ワクチン接種代
	900,000	白衣授与（2019年度5年次生対象）
小計	5,186,200	
予備費	200,000	
積立金	1,000,000	将来の各種事業に向けた積立金
支出合計	14,355,800	



進路に迷っている方へ

清水 涼



2009年 学部卒業
(薬用植物園)

とちもとてんかいどう

株式会社栃本天海堂
薬局部

別に薬学部を卒業したからといって、薬剤師にならなくてもいいんですよ。

私がみなさんに伝えたいことは以上です。忙しい方はさようなら。もう少し読んでくれる方はこんにちは。

2009年卒業の清水と申します。私は漢方総合卸 栃本天海堂の直営薬局で働いています。私は薬用植物園で、後藤勝実先生、月岡淳子先生、久保成行先生にお世話になりました。植物園では農作業の合間に、いろいろな体験をしました。かじかんだ手でベニバナを使って染物をしたり、大量の花椒の果皮と種子を手作業で分けたり、泥にまみれてハスを植え替えたり、大変貴重な経験でした。昼休みや午後の休憩では、後藤先生がいろいろな話をしてくださいましたが、その中でも、何度も仰っていたのが、頭でっかちになるな、本に関しては金に糸目をつけるな、そして、薬剤師にならなくてもいいということです。

みなさん、本当にやりたいことは何ですか。

薬剤師になりたいなら安心です。そのまま、目標

に向かって突っ走ってください。でも、実際は迷っている方もたくさんいると思います。私自身そうでした。薬学部に入ったものの、授業の内容に興味を持てませんでした。そんな中、3年次生の選択授業で漢方の授業があり、興味をそそられて進路を決めました。

私は広くまっすぐな道ではなく小径を選びましたが、結局、薬剤師になりました。みなさんは、薬剤師以外の仕事も一度、選択肢に入れてみてはいかがでしょうか。救急救命士や消防士になってもいいし、医療とは関係のない営業の仕事に就いてもいい。ビールが好きならマイクロブルワリーを立ち上げてもいいし、作家になりたいなら働きながら私塾へ通ったり賞に応募したりしてもいい。何だっていいんです。失敗するかも後悔するかもなんて今は考えなくてもいいです。一度や二度の失敗で人生は終わりません。情熱を持って何かに取り組める人は、いつでも何度でも取り戻せます。そもそも、薬剤師はもはや安定した職業ではないので、そこに重きを置くことはないのです。人は気付かないうちに、思い込みや先入観に捉われています。

自分の考えを補強する証拠ばかり集めてそれ以外のことは信じなかったり、自分には関係ないと決め付けてそれ以上知ろうとしなかったり、他人のことを自分よりバカだと思っていたり。何かを考えたら、その考えとその前提にあるものが本当に正しいのか確かめてください。一度、虚心になって考えてみてください。少し視野が広がるかもしれません。

別に薬学部を卒業したからといって、薬剤師にならなくてもいいんですよ。

2019年度後期の試験等の日程については本学HPより「2019年度行事予定表」をご覧ください。

再試験受験手続が遅れる学生が、例年見受けられます。日程等(再試験手続の詳細は後日掲示で連絡します)をよく確認しておいてください。

「再試験受験許可書・領収書」は、再試験を受験する際に必要です。手続後、再試験受験時まで紛失しないよう大切に保管してください。万が一紛失した場合は、教務課で再発行をしますので申し出てください。



*4年次前期科目の再試験Ⅱと後期再試験の受験手続を同時に行うので、該当者は注意してください。

2019年度
行事予定表



「ふに(ふじ)」から始まる謹賀新年。春到来を知らしめる“桜餅”の和菓子屋さんは“地産地消”という意味で「身土不二」を掲げておられる。納得できるような、できぬような▲上村松園(明治8-昭和24)、四条通御幸町の葉茶屋に生まれ、「女が絵師に」と揶揄する時代に、母親の励ましもあって12歳で京都府画学校(現京都芸大)に入学、鈴木松年、幸野楳嶺、竹内栖鳳(本宅は清水のSODOHに変身)の薫陶を受け、日本絵画のレベルを上げたと言われる多数の美人画を残している▲なかでも、仕舞を舞う女性を描いた《序の舞(重文, 昭和11)》。朱を基調とした振袖で、手の先の扇の、さらに先に視線を通す、凛とした表情が大きな余白と相まって“近代美人画の最高峰”と評される。肯けるどころか、ときを経て国宝と思う。「この絵は私の理想の女性の最高のもの---何ものにも犯されない、女性のうちにひそむ強い意志を、この絵に表現したかった」*と。舞いの姿を借りて、当時の画家の動じることなく、心するところに向かって行くという心象が表現された、正月に相応しい絵である▲松園の下絵・素描を見る機会を得た。墨での線描と岩彩を淡く使う日本絵画は下書きもならず、一発勝負と聞いてきた。しかし《花がたみ(大正4)》《草紙洗小町(昭和12)》の下絵は本紙と寸分違わない。下絵を横目に本紙の線を引いたとは思えない。友人の日本画家に教えろメール、応えて曰く「紙本なら水に溶ける淡い色のチャコペーパーで写し、絹本なら透き通るので下に置いてなぞります。完全には無理ですが擦ったりして置いた色を消すことも」。ということは、消し残った色に引っ張られることもある▲《序の舞》の制作にあたって描かれた顔・頭部の素描が多数残されている。その後、下絵草稿に至っても部分的に切りとられ、幾枚もの紙が貼られている。試行を重ねて本絵に着手したことが覗えるが、下絵の表情には張りがない▲「美人画を描く上でも、いちばんむづかしいのはこの眉であろう。口元や鼻目ことに眉となるとすこしでも描きそこなうと、とんだことになる」*、美人画の点睛は眉という。描いた順を証拠もなく想像。全体の線描の後に、着物、手、首、襟足、足先に色を置き、「むづかしい」顔の表現に着手したのではないだろうか。環境(依)と身体(正)は互いに影響し合うもの(依正不二)、色を置いた姿が本絵の目と眉を決め、そしてそれらが不二の間柄となったのではないか▲松園の画業を巡っても不二が見える。源氏物語『葵』に登場する、嫉妬して生霊(いきすだま)となった六条御息所の姿を描いた《焰(大正7)》、「私の数多くあるうち、たった一枚の凄艶な絵」*と書いている。源氏物語『葵』をもとにした謡曲『葵上』に出会うことで二十年前の愛憎のときの心象が蘇り、六条御息所の「凄艶な」姿を描いたのではないだろうか。その絵には、藤の花と蜘蛛の巣が描かれた着物で女性としての優しさと凄みが、黒髪を噛み振り向く姿で嫉妬に苛まれる様が描かれている。それ以後、さらに二十年、「優しさとは」「母として」「女性として」「どう生きるべきか」を多数の美人画制作で問い続け、動じない、清々しい《序の舞》に到達した。松園の多数の作品のなかでも、ことに魅了される二つの画は不二のものと思う

*上村松園著『上村松園全随筆集 青眉抄・青眉抄その後』(求龍堂)



『KPU_{NEWS}』が、前身の『学園ニュース』から数えて200号を迎えるとのことで、それを記念して両者の歴史についての寄稿を編集委員会より依頼されました。本年3月まで編集委員長を務めていたことでもあり、また、現在は京薬会の歴史資料室委員長を仰せつかっていますので、ちょうどよい機会と考え、お引き受けいたしました。しかし、『学園ニュース』『KPU_{NEWS}』の歴史だけでも予定の枚数を超えてしまいました。さらに過去に本学内で発行されていたいくつかの学内メディアの歴史をもふりかえってみたいという欲が出てしまいました。そのような次第で、無理なお願いをいれていただいて連載とさせていただくことになりました。今回はまず『学園ニュース』を取り上げますが、号ごと、および年度ごとのページ数の変遷に焦点をあてて、時期区分を行っていきます。

名誉教授 鈴木栄樹

『学園ニュース』の思い出

半ば私的な思い出になるのですが、私が本学に着任したのは1992（平成4）年4月のことで、発行されたばかりの『学園ニュース』第89号をいただきました。今回の執筆にあたり、あらためて同号を手にとってみますと、B5版20ページの同誌の表紙には当時の田中久学長による新入生への「歓迎の言葉」が掲載され、2ページ目以降に、教務部長（今原広次教授）・学生部長（太田俊作教授）・就職指導部長（西野武志教授）・大学院研究科主幹（大幡勝也教授）による「新入生の皆さんへ」が続きます。西野先生は現在京薬会会長です。今でもよくお会いしますが、昨年亡くなられた大幡先生ほかのお名前から当時のお顔が懐かしく思い出されます。同号は、さらに教室（現在の「分野」）紹介、学生による「随筆」、そして就職指導部など事務局からの連絡、人事異動や教員の海外出張記事、実験動物慰霊祭の報告などで埋められています。学生による「随筆」の一つは、「東西ベルリンを訪ねて」と題されたものであり、私の着任が、ベルリンの壁崩壊（1989年11月）から間もない時期であったことを想起させてくれました。

当時の『学園ニュース』の記事で今でも記憶に残っているのは、第91号（1992年10月）に掲載された田中学長による「山科黙想小路の植物たち」です。この文章を拝読してより、山科駅と本学との間を歩きながら、季節ごとに花を咲かせ、実をつける植物たちの名前をおぼえたいと思うようになりました。30年近く前のこととて、山科駅前と言うまでもなく、沿道の景観も少しずつ変わってきていますが、着任した年に素敵なエッセイと出会ったことは幸せでした。

さて、思い出話はそれくらいにしまして、本論に入ることにしましょう。

『学園ニュース』の創刊

『学園ニュース』の第1号には発行年月が昭和43年12月と記されています。つまり1968年のことですから51年ほど前になります。B5版4ページ、ささやかなスタートが切られたわけです。1ページ目には、当時の富田真雄学長が「学園ニュース発刊について」を寄せ、「職員・学生諸君へのお知らせならびに連絡を主体とした『学園ニュース』を随時発行することにいたしました」と記しています。

また、アンケートや投書などによる職員や学生の意見も誌面に反映させ、建設的な意見は取り入れ、「ささやかな学園ニュースを通じていささかながら学園の発展に寄与するところがあれば学園ニュースも意義あるものになる」との抱負を述べています。『学園ニュース』の編集担当は、全号を通じて明記されてはいませんが、『京都薬科大学百年史』によれば、「学生課が中心となって編集に当たった」（250ページ）とのことです。



学園ニュース 第1号

『学園ニュース』の揺籃期

「随時発行」と記されていたように、第2号が刊行されたのは、創刊号より半年以上たった1969年7月でした。ページ数は6ページへと増えています。以後、年度ごとの刊行状況を記しますと、1969年度が3回（7月⑥／10月④／1月⑥、以下、丸囲み数字はページ数）、1970年度が2回（4月⑫／1月⑭）、1971年度が3回（5月⑥／10月⑧／2月⑥）、1972年度が3回（7月⑥／10月⑥／1月⑧）、そして創立90周年を翌年にひかえた1973年4月刊行の第13号から、ようやく単年度4回の定期刊行（4月／7月／10月／1月）となり現在にいたっています。ちなみに年度ごとの合計ページ数は、第1号だけの1968年度を除けば、ほぼ16～26ページとなります。1972年度までは『学園ニュース』の揺籃期と言えるでしょう。

『学園ニュース』の定期刊行化

1973年度より定期刊行になった事情については、『京都薬科大学百年史』の以下の記述が示唆的です。少し長い目ですが、引用しておきます。

昭和48年（1973）から3学科制となって学生数も増え、施設設備なども面目を一新するなど〔同年に南校舎が竣工―鈴木注〕、父兄にも承知しておいてほしいことが増加する一方、父兄会の方からも連絡をより密にしてほしいという要求が出された。従来は、父兄会が年1回『父兄会だより』を発刊配布していたが、これを廃止して今後発刊の『学園ニュース』に父兄への連絡の機能も吸収し、随時父兄に対する通知、父兄からの意見や投稿なども収載し、それを発行ごとに父兄に郵送することになった。したがって、編集の方針が父兄会の目的に即応するようになり、教育内容の向上にも役立つことが期待できることになった。（250～251ページ）

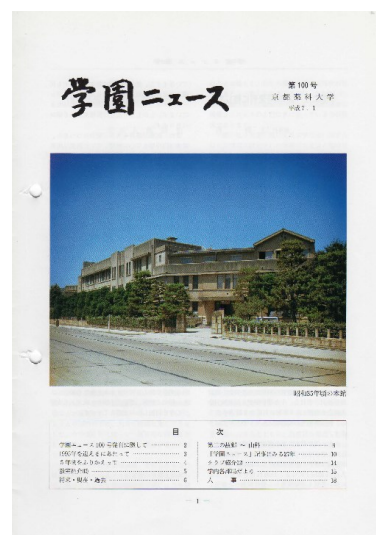
こうして定期刊行化した1973年度初号の第13号以降、1号あたりのページ数を見ますと、1978年度（第33号～第36号）までは、ほぼ8ページないしは10ページで、12ページの号が2回（第20号と第35号）だけ刊行されています。1979年度（第37号～第40号）から1988年度（第73号～第76号）までは、ほぼ8ページから12ページで、最少で4ページ（第56号）、最多で16ページ（第39号）です。この間、本学は1984年に創立100周年を迎えましたが、「創立百周年を迎えて」を巻頭に置いた第59号（1984年10月）でも12ページでした。

しかし、年度ごとの総ページ数を見ますと、1973年度は34ページとなり、前年度の20ページから急増し、以後もこの水準を下回ることはありませんでした。

『学園ニュース』から『KPU NEWS』へ

元号が「昭和」から「平成」へと変わった1989年4月刊行の第77号は、はじめて18ページだとなりました。そればかりでなく、前年度までの単年度の合計ページ数は多くても50ページまででしたが、1989年度（第77号～第80号）に刊行された4号分の合計ページ数が初めて60ページを記録し、さらに、冒頭に記した私の着任初年度の1992年度（第89号～第92号）には70ページを越え、1994年度（第97号～第100号）では86ページだとなっています。ちなみに、第100号では、表紙に初めてカラー写真が使用されました。また、第101号（1995年4月刊行）は初めて32ページだとなりました（ただし、最終ページは白紙）。同号には、一般教育担当の教員5名による「新入生に薦めるこの本あの本」が5ページにわたって掲載されていました。これは、一種の特集と言ってもよいでしょう。同号を含む1995年度では、合計98ページとなりますが、この年度内に『学園ニュース』（第103号）から『KPU NEWS』（第104号）へと装いを改めるのです。

A4版への移行は、1992年以降の行政文書のA判統一化の影響ですが、平成に変わってからのページ数急増の背景として推測できるのは、諸大学、そして本学をとりまく環境の変化があります。1991年7月の「大学設置基準」（文部省令）の改正施行により「自己点検」「自己評価」が強調されるようになったこと、文部省（現文部科学省）の外郭団体として1959年に発足した財団法人（現在は公益財団法人）大学基準協会の維持会員への本学の加入・登録に向けての動きであり、これは1992年3月に同協会から認可の旨の通知がありました。このような推移のなかで、『学園ニュース』の果たす役割が重要視されたことがページ数急増、さらには『KPU NEWS』への脱皮の背景にあったのではないのでしょうか。



学園ニュース 第103号

各種セミナーの報告書

これまでに開催されたセミナーにおいて、本誌に未掲載の報告書は以下よりご覧いただけます。

■第3回 卒後薬剤師セミナー ―ゲノム医療― (10月6日開催)

https://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/cancer2017-2021/pdf/20191006_report.pdf



■第2回 遺伝子・ゲノムセミナー(10月26日開催)

https://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/cancer2017-2021/pdf/20191026_report.pdf



「いのちの時間」は、「いのち」「医療」「クスリ」といった医療関連のテーマが題材となっている映画の鑑賞を通して、医療人としての倫理観・感受性を育む事業として、2016年度から始まりました。現在までに学内で映画上映会を5回開催、さらに映画DVD33本を「いのちの時間」ライブラリとして本学図書館に整備しています。

今回、この「いのちの時間」ライブラリを広め、より多くの皆さんに利用していただこうと、学内ジョブで集まった学生5名が各々ライブラリの中から選んだ1本を実際に鑑賞し、皆さんに紹介いたします。

「いのちの時間」ライブラリDVDリスト

No.	分類	作品名
1	生命医療倫理	『孔子の教え』
2	生命医療倫理	『トレインスポッティング』
3	生命医療倫理	『夜と霧』
4	インフォームド・コンセント	『キリング・フィールド』
5	終末期医療	『潜水服は蝶の夢を見る』
6	終末期医療	『私だけのハッピーエンディング』
7	終末期医療	『おくりびと』
8	終末期医療	『殯(もがり)の森』
9	終末期医療	『遺体 明日への10日間』
10	超高齢化社会と医療	『マーガレット・サッチャー 鉄の女の涙』
11	生殖医療	『私の中のあなた』
12	生殖医療	『秘密と嘘』
13	生殖医療	『うまれる』
14	医学研究	『ナイロビの蜂』
15	高度先進医療	『アデル』
16	高度先進医療	『闇の子供たち』
17	医療資源配分・医療制度	『シッコ』
18	精神医学および性に関わる問題	『博士の愛した数式』
19	精神医学および性に関わる問題	『人生、ここにあり』
20	精神医学および性に関わる問題	『クワイエットルームにようこそ』
21	精神医学および性に関わる問題	『クイルズ』
22	精神医学および性に関わる問題	『精神』
23	精神医学および性に関わる問題	『ボーイズ・ドント・クライ』
24	精神医学および性に関わる問題	『ロバート・イーズ』
25	医のプロフェッショナリズム	『風に立つライオン』
26	医のプロフェッショナリズム	『リトル・ショップ・オブ・ホラーズ』
27	その他	『ジョゼと虎と魚たち』
28	その他	『八日目』
29	その他	『最強のふたり』
30	その他	『そして誰もいなくなった』
31	その他	『アレクサンドリア』
32	その他	『メゾン・ド・ヒミコ』
33	高度先進医療	『わたしを離さないで』

かくた かずあき
1年次生 角田 和陽

今回、私が鑑賞したのは『潜水服は蝶の夢を見る』です。1年次前期のある講義内で取り上げられた病気に主人公が罹っていることから、一例としてこの作品が紹介され、興味を持ちました。

この作品の魅力は、約九割の時間が主人公の主観的な視点で描かれているところと、実話を基にした作品であることです。私自身、医療モノが好きでよく見るのですが、大半の作品は医者・看護師などの医療従事者が主人公で、患者さんは脇役です。しかし、現場では患者さんこそが主人公です。医療従事者にフォーカスし過ぎてしまうと「治してあげる」という独善的な感覚が潜在的に生まれかねません。そういった意味で、医療従事者を原点に立ち返らせてくれる素晴らしい作品だと思います。



No.5 『潜水服は蝶の夢を見る』
配信中
©Pathe Renn Production, France
3 Cinema, CCRAV 2007

主人公はバリバリに働いている最中で病に倒れ、絶望の淵に立ちましたが、目標を持ちリハビリを続けそれを成し遂げました。結局、病を治す・改善するのは患者さんの頑張りが大切で、自分が将来、医療従事者としてどのように寄り添えば良いのかということはこの作品を通して改めて考えることができました。

■ 2年次生 岡本 未奈子

「人は死んでしまったら終わり」だと思っていま
せんか？どうも、何もかも終わってしまう訳では無
い様なのです。この映画は、亡くなった方が新しい
世界へ旅に出るのに身支度を整える、「おくりび
と」納棺師のお話です。納棺師の仕事ぶりから
「死」に対するイメージが変わる映画でした。

私はこれまで「死は終焉であり絶望」という様に
受け取っていました。しかし、納棺の様々な場面を
見ているうちに、取り乱したり大きな悲しみに打ち
ひしがれたりしているご遺族が、亡くなった方の人
生を振り返るという時間を通して、その死を受け入
れ「旅立ちを見送ってあげる」という穏やかな気持
ちへと変わっていく事に納得し、感動しました。



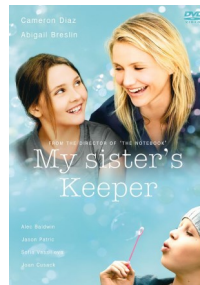
No.7 『おくりびと』
滝田洋二郎監督
2008年、日本

誰にでも遅かれ早かれいつかは必ず訪れる「死」。
旅立つ人、見送る人、それぞれの立場から死の向き合
い方を考えるきっかけになりました。

私達も薬剤師としてこの旅立ちの一步手前まで関
わっていく事もあるかもしれません。この映画を通し
て、患者さんに寄り添い、ご家族の方を含め、少しで
も心穏やかに過ごして頂ける様、私達の立場から何が
出来るのかを考えるきっかけになればと思います。

■ 2年次生 南出 真歩

今回私は、生殖医療がテーマとなっている『私の中
のあなた』を鑑賞した。主人公のアナは、白血病でド
ナーが不可欠の姉を救うために生まれてきた。ここで
言う「姉を救うため」とは、姉のドナーとなることで
ある。アナの立場から考えると、一見両親がとてつも
なく冷酷な人物であるかのように思えるかもしれな
い。だが、そうとも限らない。両親の視点から見ると、
彼らは少なくとも「姉の命を救いたい」という一
心から思い切った行動を取ったのもまた事実だ。一
方、白血病の姉の視点からだとうだろうか……。こ
のように、それぞれの登場人物の視点によって真実の
捉え方が変わる、非常に複雑なストーリーとなっている。



No.11 『私の中のあなた』
発売中
価格：¥1,143（税抜）
発売・販売元：ギャガ
(C)MMIX New Line Productions Inc.
All Rights Reserved

私たちは、将来医療人となるべく現在学んでいる。
学生のうちからこのような医療倫理について考えるこ
とは非常に有意義であり、今後に活かすことができる
と思う。社会に出ても、患者さんにきちんと向き合
い、ご本人やご家族、それぞれの立場から物事を考え
られる医療人でありたい。

■ 1年次生 松谷 幸一郎

衝撃的な作品。ドキュメンタリーで著名なマイケ
ル・ムーア監督がアメリカの医療問題に鋭くメスを
入れた。本作品では、アメリカの医療と欧州などの
他国の医療を比較し、他の国で行われている良い医
療をなぜアメリカでは実践できていないのかを検証
する。その方法として、様々な医療関係者および医
療の受け手にインタビューし、事実を明らかにする
のだが、（もちろんこのインタビュー内容の全てを
鵜呑みにするのは危険だが）、アメリカの医療がい
かに特殊なのがよくわかる。

また、この作品の面白い点は生粋のアメリカ人
である監督自身が、他国でのインタビューを通して自
分が当たり前と思っていたことが覆され、カル
チャーショックを受けている点だ。これは私たち日
本人にも当てはまることで、おそらくこの映画を見



No.17 Blu-ray 『シッコ』
発売中
価格：¥2,000（税抜）
発売・販売元：ギャガ
c 2007 Dog Eat Dog Films, Inc. All
rights reserved.

た人は今自分たちが受けている医療は本当にベストと
言えるのかを考えさせられるだろう。

将来、医療人として活躍するために、この作品から
得られる医療制度への多様な視点は必ず役立つはず
だ。医療とは何のためにあるのか、そして医療従事者
とはどうあるべきなのかを改めて考えさせられるこの
作品は薬剤師を目指す他の方々にもぜひ見ていただき
たい。

■ 1年次生 大野 日向子

この映画は、ナポレオン1世の治世下において「下劣で淫猥な」作品ばかり出版するマルキ・ド・サド侯爵の精神病院での晩年を描いた作品です。彼はサディズムの語源となった人物です。そんな彼を矯正する為ナポレオンが送り込んだコラル博士を触媒とする化学反応が描写された映画です。

作品中では、コラル博士の指導下で、治療として水責めや鞭打ちなど非人道的な事が行われます。患者たちの大部分は精神疾患や知的障害があるように見えますが、その中でサドは何らかの疾患にかかっているようには見えず、当時の一般的な思考の範疇を遥かに逸脱して自由な考えの持ち主であったかのように思われます。その自由さは社会にとって異常なこと、つまり脅威だったのです。

「異常者」や「狂人」などの言葉は我々には過剰



No.21 『クイルズ』＜特別編＞

DVD発売中

¥1,419+税

20世紀フォックス ホーム エンターテイメント ジャパン

(C)2012 Twentieth Century Fox Home Entertainment LLC. All Rights Reserved.

で不自然に聞こえますが、そこまで強い言葉を用いることは無くとも、「普通と違う」ということに我々も似たような感情を感じるときがあると思います。「普通と違うということはおかしい」と思考停止し、決めつけることは簡単ですが、多様性を受け入れる現代社会において、自分の中にある「普通という枠」を意識しつつ、多様な患者さんに柔軟に対応できる医療人を目指していきたいです。

今回は5名の学生の皆さんが「ぜひ皆さんに見てもらいたい」と思う映画を紹介してくれました。1本の映画を通して、それぞれが将来医療人となる自分自身の姿勢や、「医療」そのもののあり方などについて考える機会となったようです。

「いのちの時間」ライブラリでは、こうした何らかの「気づき」を与えてくれるような題材のものを取り揃えています。学業や研究の合間に、ぜひこのライブラリを活用していただき、楽しみながら豊かな人間性を育んでもらえればと思います。



第25回 京都薬科大学 公開講座

Event

生涯教育センター

2019年10月19日（土）13:00～16:30、雨模様にもかかわらず78名の方々に来場していただき、「第25回 京都薬科大学 公開講座」を開催しました。

第1部は、愛学館A31講義室において、上野嘉夫教授による『文明の発展に寄与してきた数学～古代文明から最先端の科学まで～』、楠本正明教授による『お薬、たくさん飲んでいませんか？～ポリファーマシーを見直そう～』の2講演を行いました。

第2部の薬用植物園御陵園の見学前に、雨が小降り

になるのを待つ間、松田久司教授による『漢方ミニ講義』を実施したところ、大変好評でした。その後、希望者のみ、約半数の来場者に御陵園へ足を運んでいただきました。本学学生の薬草に関する説明を熱心に聞かれる参加者が多く、皆様には秋の一時を楽しんでいただけたと思います。

講師の先生方および薬用植物園関係者の皆様のご協力のもと、本年も無事に開催できましたことを心より御礼申し上げます。



上野教授による講演



薬用植物園御陵園の見学

基礎演習（1年次科目）の学外活動の一環で、地域の小学校に訪問して薬物乱用防止教室をおこないました。今年で3年目となる今回の薬物乱用防止教室は、地域住民も自由に参観できる公開授業として開催されました。

“健康な心と体を自ら求める子どもを育む”をテーマに、「薬を体に入れる意義や意味を小学生に自分で調べて考えてもらいたい」という小学校の先生方の要望を受け、10名の1年次生と一緒に、以下のとおり企画・実施しました。

将来、薬剤師として薬物乱用防止教室を企画・実施する立場となる本学の学生にとっても、どのようにおこなえばいいのか、を考えてもらうために実際に自分で教えることを体験してもらいました。学生たちは、小学生と一緒にグループワークを楽しみ、積極的に小学生たちとコミュニケーションをとっていました。「わたしも将来、薬剤師になりたい」と感想文に書いてくれた小学生もありました。また、地域住民の方からも、「授業が面白く、知らないこともあって、私たちも大変勉強になった」と感想をいただきました。

■小学3年生（37名）対象

タイトル 「おくすりを使う時・のむ時の注意」

内容：導入（おくすりをなぜのむの？どんな形があるの？）

おくすり〇×クイズ（3問）

おくすり実験（緑茶と鉄剤、オレンジジュースと胃薬、くつつくカプセル）

説明（どうしてこうなるの？）

班ごとに学んだことの振り返り

発表

■小学6年生（34名）対象

タイトル 「カフェインについて学ぼう」

内容：導入（カフェインは何に入ってる？カフェインのプラス効果）

カフェインクイズ（どの飲み物が一番多いでしょう？）

カフェイン量調べ（緑茶、コーヒー、コーラ、エナジードリンク、薬、栄養ドリンク）

説明（カフェインのマイナス効果）

班ごとに学んだことの振り返り

発表



＜小学3年生＞
グループ（学生1名+小学生4名）ごとに
おくすり実験



＜小学6年生＞
グループ（学生1名+小学生3名）ごとに
カフェインクイズとカフェイン量調べ

News 人事

採用

生命薬科学系生化学分野 助教 幸 龍三郎
医療薬科学系臨床薬剤疫学分野 助手 冢瀬 諒
(以上 任期：2019. 10. 1～2024. 9. 30)

任期満了

契約職員

安本 義仁
(2019. 9. 30付)

■2020年度生涯研修プログラム 概要

2013年の薬事法改正から5年が経過し、医薬品や医療機器等を取り巻く状況は大きく変化しています。2019年11月、患者本位の医薬分業を推進するため薬機法（医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律）が改正されました。薬剤師や薬局関連では、服薬期間中の継続的な服薬状況の把握や薬学的知見に基づく服薬指導の義務化、機能別薬局認定制度の導入、遠隔服薬指導の規定追加等が明記され、薬剤師の「モノからヒトへ」の業務シフトがどんどん加速しています。

2020年度生涯研修プログラムでは、「患者のための薬学的介入の実践」を目標に研修を提供します。本学学生・教職員の聴講は無料ですので、どうぞ奮ってご参加ください（参加方法は表下部をご参照ください）。

【生涯研修プログラム】

(2019/12現在)

プログラム名 (定員)			開催日時	テーマ／担当講師	単位 (G24)	受講料 (円)	申込 受付期間
「患者の ための モノから ヒトへの 薬学的 介入の 実践」 卒後教育講座 (360名)	第1回 5/17(日) 講演	10:00～11:30 ＜ 90分 ＞	アレルギー性疾患について～特に、アレルギー性結膜疾患について～ 京都府立医科大学 感覚器未来医療学講座 特任准教授 上田 真由美 先生		3	3日間 12,000	2020年 3/1(日)～ 5/7(水)
		12:30～14:00 ＜ 90分 ＞	即時型アレルギーのメカニズム 京都薬科大学 病態薬科学系 薬理学分野 教授 田中 智之 先生				
		14:15～15:45 ＜ 90分 ＞	検査値を用いた個別化医療の実現 千葉大学医学部附属病院 薬剤部 薬剤部長 石井 伊都子 先生				
	第2回 6/7(日) 講演	10:00～11:30 ＜ 90分 ＞	薬局・病院での栄養療法の基礎から実践まで<臨床編> 京都桂病院 薬剤科 経営企画室兼務 野崎 歩 先生		3		
		12:30～14:00 ＜ 90分 ＞	薬局・病院での栄養療法の基礎から実践まで<基礎編> 京都薬科大学 生命薬科学系 衛生化学分野 教授 長澤 一樹 先生				
		14:15～15:45 ＜ 90分 ＞	小児薬物療法の現状と問題点～小児薬物療法において薬剤師は何をすべきか～ 医療法人同愛会小澤病院 薬剤部長 / 昭和大薬学部病院薬理学講座 兼任講師 富家 俊弥 先生				
	第3回 7/5(日) 講演	10:00～11:30 ＜ 90分 ＞	慢性腎臓病の考え方と腎機能低下時の薬物投与について 八田内科医院 理事長・院長／近江八幡市立総合医療センター腎臓センター 顧問 八田 告 先生		3		
		12:30～14:00 ＜ 90分 ＞	CKD患者における薬物動態の変動 京都薬科大学 医療薬科学系 臨床薬学分野 講師 辻本 雅之 先生				
		14:15～15:45 ＜ 90分 ＞	地域包括ケアシステムにおける薬局の役割(仮) ダイドー薬品株式会社 代表取締役社長 山本 新一郎 先生				
フィ ジ カ ル ア セ ス メ ン ト	<入門> 講義 (100名)	4/12(日) 10:00～16:00 ＜280分＞	フィジカルアセスメントを活用して多職種連携を進めよう 1.総論「医師・看護師・薬剤師のフィジカルアセスメントの目的を知ろう」 2.疾病の基礎「患者が示すバイタルサインと症候から処方提案してみよう」 JCHO 京都鞍馬口医療センター 血液内科 医師 淵田真一先生、看護師 門田典子先生 京都薬科大学 病態生理学分野 准教授 医師 細木誠之先生 京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 講師 薬剤師 救急救命士 今西孝至先生		3	5,000	2020年 2/12(水)～ 3/30(月)
	<アドバ ンス> 実習 (各20名)	4/19(日) 10:00～16:30 <315分>	磨こう！薬剤師だから気付くフィジカルアセスメント推論力 1.(講義・実習)バイタルサイン情報収集スキル習得 2.ランチョンミーティング 3.(講義・SGD)症例検討・発表 4.(実例紹介)私が行っているフィジカルアセスメント JCHO 京都鞍馬口医療センター 血液内科 医師 淵田真一先生、看護師 門田典子先生 京都薬科大学 病態生理学分野 准教授 医師 細木誠之先生 京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 講師 薬剤師 救急救命士 今西孝至先生 他		3.5	10,000	2020年 2/12(水)～ 4/6(月)
		5/24(日) 10:00～16:30 <315分>			3.5	10,000	2020年 2/12(水)～ 5/11(月)
漢方講座 (100名)	9/13(日)、10/11(日)、 11/8(日)、12/6(日) 全4回 講義 <300分/日>	<詳細未定>対象：漢方治療に関心のある薬剤師 テーマ：10:00-11:40 【基礎】入門的内容、12:30-14:10 【薬物】薬剤師に役立つ内容 14:20-16:00 【臨床】医師からの臨床症例		3/日 全12	4日間 20,000	2020年 7/1(水)～ 8/31(月)	
	特別公開講座 4/19(日)12:30-16:00	<詳細未定> 京都漢方研究会の特別講演		2	無料	事前申込 不要	
	特別公開講座 2021/3/14(日)12:30-16:00	<詳細未定> 京都漢方研究会の特別講演		2	無料	事前申込 不要	
実務支援 セミナー 実習 (40名)	2021年2/28(日) 10:00～16:00 ＜280分＞	注射薬の無菌混合調製～外来化学療法と在宅医療～		3	10,000	2020/12/9(水) ～ 2021/2/15(月)	
卒後教育講座 web版 (eラーニング講座)	2020年11/1(日) ～2021年1/31(日)	本学で開催した2018～2020年度「卒後教育講座」を収録、配信 ＜ご注意＞過去にeラーニング講座または卒後教育講座を受講し、既に単位を取得済みの コンテンツは、認定単位の配付はありません(視聴のみ)。		25 予定	15,000	2020年 9/2(水)～ 10/26(月)	

*プログラム詳細はホームページ(<https://skc.kyoto-phu.ac.jp/>)をご参照ください。

*演題及びプログラム内容等は変更される場合がありますので、ホームページをご確認ください。

【参加方法】本学学生・教職員の無料聴講について

- *1) 卒後教育講座、フィジカルアセスメント講座<入門>、漢方講座：事前にメールにて生涯教育センターにお申込みください。
- *2) フィジカルアセスメントセミナー<アドバンス>、実務支援セミナー：申込受付期間終了後、定員に空きがある場合のみ参加可能です。事前にメールまたは電話で生涯教育センターにお問合せください。

■2020年度生涯研修プログラムのお知らせ

2020年2月12日(水)より「フィジカルアセスメント講座〈入門コース〉」と「フィジカルアセスメントセミナー〈アドバンストコース〉」の申込受付を開始します。

◇「フィジカルアセスメント講座〈入門コース〉」 ※本学学生・教職員無料

「フィジカルアセスメントを活用して多職種連携を進めよう」

多職種連携チーム医療の中では、フィジカルアセスメントという共通言語を使って患者の病態を共有しています。本講座では、バイタルサインの基本と、医師、看護師、薬剤師のフィジカルアセスメント目的の違いを知り、実症例から問診、検査、診断、治療の流れを学び、処方設計につなげます。

*開催日程：2020年4月12日(日) 10:00～16:00

*開催場所：京都薬科大学 愛学館3階 A31講義室

*定員：100名 *受講料：5,000円 *認定単位：G24 3単位

*申込受付期間：2020年2月12日(水)～3月30日(月)

◇「フィジカルアセスメントセミナー〈アドバンストコース〉」 ※薬剤師限定

※申込受付期間終了後、定員に空きがあれば学内(本学大学院生、教職員)からの参加を受け付けます。

「磨こう！薬剤師だから気付くフィジカルアセスメント推論力」

多職種連携チーム医療の中で、薬剤師はバイタルサイン情報等をもとに薬学的介入を行い、安全で最適な薬物療法を提供する必要があります。本セミナーでは、患者に見立てたフィジコからのバイタルサイン収集実習、アセスメントから処方提案まで学習します。またフィジカルアセスメント活用例紹介により明日からの実践につなげます(同内容で2回開催)。

*開催日程：2020年4月19日(日)、5月24日(日) 10:00～16:30 ※いずれかの日程を選択

*開催場所：京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター2階

*定員：各20名(薬剤師限定) *受講料：10,000円 *認定単位：G24 3.5単位

*申込受付期間：4/19開催：2020年2月12日(水)～4月6日(月)

5/24開催：2020年2月12日(水)～5月11日(月)

■申込方法

生涯教育センターホームページよりお申込みください。 <https://skc.kyoto-phu.ac.jp/>



生涯教育センター
トップページ



〈フィジカルアセスメント講座
入門コース申込ページ〉



〈第1回フィジカルアセスメントセミナー
アドバンストコース申込ページ〉



〈第2回フィジカルアセスメントセミナー
アドバンストコース申込ページ〉

*詳細はホームページ(<https://skc.kyoto-phu.ac.jp/>)をご参照ください。

*プログラム内容等は変更される場合があります。

■お問合せ先：京都薬科大学生涯教育センター

E-mail：s-center@mb.kyoto-phu.ac.jp

TEL：075-595-4677 (平日 10:00～16:00)

FAX：075-595-4683 (24時間受付)

2020年度推薦入学試験結果

Report

入試課

2020年度推薦入学試験の内、指定校制推薦入学試験は2019年11月11日(月)に、一般公募制推薦入学試験は11月16日(土)に実施され、11月26日(火)に合格発表が行われました。

結果は右のとおりです。

	募集人員	志願者数	合格者数
指定校制推薦	50名	50名	50名
一般公募制推薦	80名	293名	84名

■陸上部

〈2019年度 活動実績〉

全日本薬学生対抗陸上競技大会 (2019. 5. 5)

男女総合：1位

男子

100m	1位	野村 航也
5000m	3位	清水 那智
走幅跳	2位	北田 真也
4×100m R	1位	塚本－野村－北田－橋本

女子

100m	2位	佐野 愛
200m	2位	嵯峨山理紗
400m	3位	田中 薫夏
800m	2位	林 千晶
3000m	2位	田中 里奈

関西薬学生対抗陸上競技大会 (2019. 8. 17)

女子総合：1位

男子

100m	2位	野村 航也
4×100m R	3位	塚本－野村－北田－大西
やり投げ	1位	安藤 翔太

女子

100m	2位	阪本 圭織
200m	2位	西岡 香絵
800m	2位	林 千晶
3000m	1位	田中 里奈
4×100m R	1位	田中薫－佐野－山崎－阪本

全日本医歯薬獣医大学対抗陸上競技選手権大会 出場
(2019. 8. 22 - 23)

関西医歯薬科学生対抗陸上競技大会 (2019. 9. 16)

女子

4×100m R	1位	嵯峨山－佐野－山崎－阪本
----------	----	--------------

■ソフトテニス部

活動実績

関西薬学生ソフトテニス六校リーグ

男子団体	4位
女子団体 Bチーム	3位
女子個人戦 小山・前田ペア	4位

今後の予定

- 4月 関西医歯薬学生ソフトテニス大会
- 5月 四薬戦
- 8月 関西薬学生ソフトテニス大会
- 11月 関西薬学生ソフトテニス六校リーグ

■ESS部

Hello everyone! ESS部です。ESS部では、毎週火曜日と木曜日のお昼休み、先輩後輩みんなで英語で会話したり、ゲームをしたりして楽しく英語に触れています。また、私たちはWJEMA(西日本医歯薬科薬科学学生ESS連盟)という団体に所属しており、WJEMAの主催する各種大会やイベントにも積極的に参加しています。

大会では、スピーチ・ディベート・スライド発表の3競技に分かれ、個人やチームでその出来栄を競います。2020年3月には、冬のスピーチ大会を、ここ京薬で開催することになりました。今はその大会運営に向けての準備や、大会出場者のスピーチ作りを頑張っています！

■マンドリン部

こんにちは。マンドリン部です。マンドリン部はマンドリン、マンドラ、セロ、ギター、コントラバスの五種の楽器でオーケストラを組み演奏しています。大学から楽器を始めた部員がほとんどですが、部員同士で協力して練習し、また技術顧問の先生の指導を受けるなど意欲的に取り組んでいます。現在は全日本マンドリン連盟・京都ブロックの合同演奏会や、入学式の祝奏、定期演奏会に向けて練習を行っています。最近では依頼演奏により、独奏やアンサンブルを披露する機会が増え、活動の幅も広がっています。部活中は真剣に演奏し、また日頃から学年の垣根を越えて仲が良いので、和気あいあいとした雰囲気の中活動しています。

■管弦楽部

こんにちは、管弦楽部です。管弦楽部では経験の有無を問わず、和気あいあいとした雰囲気の中で練習に励んでいます。昨年11月には皆様のお力添えのもと、第47回定期演奏会でカリニコフ交響曲第一番をメインに3曲演奏させて頂きました。壁にぶつかることも多々ありましたが、皆で1つの曲を作り上げることの楽しさ、音楽と向き合うことの素晴らしさを改めて実感する良い機会となりました。

定期演奏会の他にも、京薬祭やボランティア演奏ではポップス曲や映画音楽などに挑戦したり、式典等での演奏の機会も頂いたりしています。大学生活で楽しい思い出を作りたい、音楽を楽しみたいなど、興味のある方は是非一度遊びに来てください♪

■男子バレーボール部

2019年度における活動実績につきましては関西大学バレーボール連盟春季リーグにて7部4位、秋季リーグにて7部2位の成績を収めることができました。また、8月に行われました関西薬学部バレーボール連盟大会においては9チーム中5位という結果となりました。11月には本校130周年記念館において7大学の薬学部が集う通称七薬を開催しました。

今後の活動予定といたしましては、3月に全国の医学部歯学部薬学部バレーボール部が参加する医歯薬バレーボール大会にも出場予定です。

■茶道部

こんにちは。茶道部です。私たち部員22名は、毎週火曜日の午後から外部の先生をお招きして御点前の作法を学んでいます。また、部員各自が他大学で開催されるお茶会に参加し、普段教わっている御点前とは少し異なった御点前を学んでいます。

毎年4月末は建仁寺でお茶会を開催し、2年次生と4年次生が着物を着て御点前を披露しています。お世話になっている先生方、卒業生の方もお越しいただくため緊張しますが、普段のお稽古とは違った雰囲気を楽しんでいます。

京薬祭では2日間模擬店を出店し、2日目には松寿軒のお菓子と辻利のお抹茶を提供しています。

これからも茶道を通じて礼儀作法を学びながら、楽しんで活動していきたいです。

■硬式庭球部

硬式テニス部は男子5人、女子5人の10人で経験者も初心者も一緒に毎週楽しく練習を重ねています。そのかいもあり、昨年の薬連では団体戦で男子は3位、女子は優勝を果たしました。

また、個人戦でも女子は優勝、準優勝、4位入賞することができました。今年度は部員を増やし、部活をさらに盛り上げるとともに、薬連での団体戦、個人戦どちらも男女とも優勝を目指し頑張っていきたいと思っています。

〈今後の予定〉

- 3月 春コメディアン(女子のみ)
春合宿
- 4月 新歓
- 5月 BBQ
OB戦
- 7月 七夕会
- 8月 薬連

2019年10月にオープンキャンパスを開催しました

Event

入試課

2019年10月27日(日)に秋のオープンキャンパスを開催しました。秋晴れの天候のなか、388名(前年比104.3%)の参加者がありました。会場の創立130周年記念館では「学長メッセージ」、「大学紹介(入試委員長)」、「在学生の話」、「卒業生の話」を行い、その後、「施設見学」、「相談会」を実施しました。

「在学生の話」では、6年次生の清水大器さんから、本学を選んだ理由や大学生活、分野での研究活動を通して成長できたことなどご自身の体験を通した話がありました。「卒業生の話」では、ユニ・チャーム株式会社に勤務されている鈴木智子様をお招きして、どんな学生生活を送っていたのか、会社での仕事、薬学部卒業後の活躍の場などをわかりやすくお話していただきました。「施設見学」では、臨床薬学教育研究センター、躬行館にある6分野の見学を行いました。見学誘導は学生広報スタッフが担当し、参加者と本学在学生が交流できる場にもなりました。「相談会」は、本学の職員と在学生が相談員となり、相談者は61名(前年比82.4%)でした。相談内容は、入学試験や進路、奨学金、学生生活など様々で、相談会参加者がとても熱心に質問や相談をされる姿が印象的でした。

また、「学生トークライブ」では、京薬生の各学年

のスケジュール、受験生が今やっておくべきことなどを自身の経験を基にわかりやすく紹介し、「とても役に立つ情報が得られてよかった」と大盛況でした。

今後も参加者の方々に本学の魅力を発信するため、より一層充実したオープンキャンパスにしたいと思いますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

【参加者内訳】

高校1年生：53名、高校2年生：81名、
高校3年生：38名、既卒生：4名、付添者：212名



大学紹介の様子

■ 優秀ポスター発表賞を受賞

2019年8月31日に東京で開催された「次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2019」において、病態生理学分野の清水大器さんが優秀ポスター発表賞を受賞しました。

受賞者：病態生理学分野 6年次生 清水 大器

演 題：プロドラッグ化ビスホスホネートPTAが γ δ T細胞の増幅を促進し、非小細胞肺癌細胞に対する抗腫瘍効果を増強する

演 者：清水大器、友金眞光、宮下雅亜、清水輝記、佐野友亮、戸田侑紀、細木誠之、田中義正、芦原英司

■ 平成30年度日本薬学会薬理系薬学部会奨励賞を受賞

2019年8月29日・30日に東京で開催された「生体機能と創薬シンポジウム2019」において、薬理学分野の藤井正徳准教授が平成30年度日本薬学会薬理系薬学部会奨励賞を受賞しました。

受賞者：薬理学分野 准教授 藤井 正徳

演 題：アトピー性皮膚炎モデルマウスを用いた痒みメカニズムの解明

演 者：藤井正徳



■ 優秀発表賞を受賞

2019年8月31日に富山で開催された「第36回 和漢医薬学会学術大会」において、生薬学分野の矢野真実子さんが優秀発表賞を受賞しました。

受賞者：生薬学分野 博士課程4年次生 矢野 真実子

演 題：ハス花部含有成分の神経様突起伸長促進作用

演 者：矢野真実子¹、中嶋聡一¹、尾田好美^{1,2}、平尾みなみ¹、中村誠宏¹、松田久司¹（¹京都薬大、²N.T.H 研）

■ 若手奨励賞を受賞

2019年8月28日・29日に本学で開催された「第31回微生物シンポジウム」において、細胞生物学分野の石丸華子さんと微生物・感染制御学分野の加屋優希さんが若手奨励賞を受賞しました。

受賞者：細胞生物学分野 博士課程2年次生 石丸 華子

演 題：ワインの残渣を用いた抗単純ヘルペスウイルス化合物の探索と作用機序解析

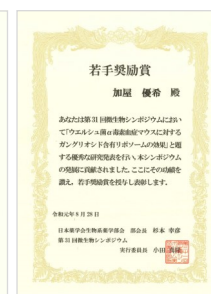
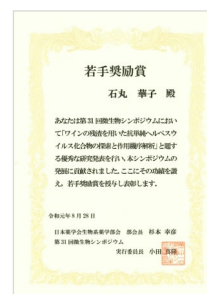
演 者：石丸華子¹、太田智絵²、中村誠宏²、松田久司²、渡部匡史¹、藤室雅弘¹

（¹京都薬科大学・細胞生物学分野、²京都薬科大学・生薬学分野）

受賞者：微生物・感染制御学分野 4年次生 加屋 優希

演 題：ウエルシュ菌 α 毒素血症マウスに対するガングリオシド含有リポソームの効果

演 者：加屋優希、長谷川雅樹、日比野泰志、矢田拓也、鴨志田剛、林直樹、小田真隆



■ 優秀発表賞を受賞

2019年9月22日・23日に北里大学で開催された「日本生薬学会第66回年会」において、生薬学分野の中嶋聡一助教と細田依里さんが優秀発表賞を受賞しました。

【優秀発表賞（口頭発表の部）】

受賞者：生薬学分野 助教 中嶋 聡一

演 題：Bryonia creticaに含まれる、アクチン脱重合制御タンパク質cofilin結合性成分の解析と作用

演 者：中嶋聡一、森田萌子、尾田好美、太田綾子、中村誠宏、松田久司

【優秀発表賞（ポスター発表の部）】

受賞者：生薬学分野 4年次生 細田 依里

演 題：血液脳関門透過性ハス特徴成分の神経突起伸長促進作用

演 者：細田依里¹、矢野真実子¹、中嶋聡一¹、尾田好美^{1,2}、中村誠宏¹、松田久司¹（¹京都薬大、²N.T.H 研）

■ 優秀発表賞を受賞

2019年10月19日・20日に岐阜薬科大学で開催された「第13回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム」において、病態生理学分野の金田生乃さんが優秀発表賞を受賞しました。

【優秀発表賞 一般演題（ポスター）】

受賞者：病態生理学分野 5年次生 金田 生乃

演 題：（日本語）ダウン症モデルマウスにおけるErg遺伝子過剰発現による胎仔期の脳内免疫細胞存在比の異常
（英語）Brain immunity in the prenatal brain is perturbed by the triplication of Erg gene in a mouse model of Down syndrome

演 者：金田 生乃¹、高田 和幸²、清水 涼平³、河下 映里³、芦原 英司¹、秋葉 聡³、石原 慶一³
（京都薬科大学 ¹病態生理学分野、²統合薬科学系、³病態生化学分野）

■ 優秀賞を受賞

2019年11月12日に京都工芸繊維大学で開催された「第9回 4大学連携研究フォーラム」ポスターセッションにおいて、本学の学生2名が優秀賞を受賞しました

【優秀賞】

受賞者：薬品物理化学分野 5年次生 小谷 真菜

演 題：ApoE糖鎖結合ドメインに基づいた新規細胞膜透過ペプチドの開発

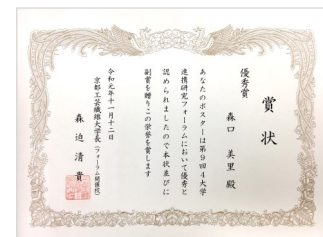
演 者：小谷真菜¹、田村悠樹¹、扇田隆司¹、原矢佑樹²、西辻和親³、内村健治⁴、
長谷川功紀¹、加藤くみ子⁵、赤路健一¹、斎藤博幸¹

（¹京都薬大、²国立衛研・薬品部、³和歌山県立医大、⁴仏国立科学研セ、⁵北里大・薬）

受賞者：細胞生物学分野 博士課程3年次生 森口 美里

演 題：カプサイシンはERK及びp38 MAPK経路を阻害し、原発性体腔液性リンパ腫
のアポトーシスを誘導する

演 者：森口美里、門田彩乃、渡部匡史、藤室雅弘



掲載

Report

■ 安朱小学校で開催された「薬物乱用防止教室」が読売新聞に掲載されました

薬品分析学分野 武上准教授が安朱小学校で行った「薬物乱用防止教室」が読売新聞（2019年9月26日）に掲載されました。

■ 本学で開催した「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2019京都」が京都新聞に掲載されました

本学で開催した「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2019京都」が京都新聞（2019年10月14日）に掲載されました。

掲載記事については本学ホームページよりご覧いただけます。
<https://www.kyoto-phu.ac.jp/compendium/paragraph/>



下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

＊ 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。

＊ 敬称略、芳名のみ掲載しております。

2019年9月～2019年11月にご寄附をお寄せいただいた方々

＜ 卒業生・同期会等（五十音順）＞

秋吉 千恵	奥林 活人	遠迫美由紀
池田 正明	川崎 真子	土岐 隆信
石田弥寿子	川島 英美	富永 享子
石橋 昌夫	木村 源造	中原 幸子
糸山 尚美	金 智恵子	中村 隆生
稲垣 美幸	楠山 龍	中森 省吾
榎本 律子	坂本美智恵	伴野 紘子
大原 松雄	佐久間賢治	宮川 克之
大見 博志	鈴木須美子	本岡美智子
岡本 昇	袖岡 茂徳	山口 博行
奥川 斉	張 賢二	山下 和紀
奥川 信子	辻 鈴美	吉永 順子
奥田 聡子	東條 信子	米満 弘夫

＜ 平成2年度卒業30周年記念募金（平成2年度卒業生）（五十音順）＞

小寄 正彦

＜ 保証人（五十音順）＞

芦田 年生	賀来 理恵	田中 邦雄	矢敷 敦
上本 伸二	末永 知弘	利光 哲也	

＜ 法人役員・評議員・職員等（五十音順）＞

木曾 誠一(理 事)	松田 敏(職 員)	森 新(評議員)	森田 和子(理 事)
------------	-----------	----------	------------

(2019年11月30日現在)



KPU NEWS No. 200 2020年1月発行／編集：KPU NEWS編集委員会

発行：京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691 (企画・広報課)

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。